

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	掲載ページ
本 部	1月24日(水) ~25日(木)	第7回土木計画学シンポジウム	土木学会	本号本文141ページ
	1月29日(月) ~30日(火)		仙台市	本号本文142 "
	2月6日(火) ~7日(水)	地震応答解析と実例講習会	東京	本号本文139 "
	2月16日(金) ~17日(土)		東京	本号本文143 "
	2月21日(水) ~22日(木)	第17回水理講演会	土木学会	本号本文140 "
	北海道支部	1月30日(火) ~31日(水)	工程管理講習会 年次研究発表会	札幌市
2月15日(木) ~16日(金)		同		本号本文147 "
東北支部	2月6日(火)	技術講座と映画の会 技術研究発表会	山形市	本号本文150 "
	2月23日(金)		仙台市	本号本文149 "
関東支部	2月23日(金)	講習会	土木学会	本文本号150 "
中部支部	2月2日(金)	研究発表会	長野市	本号本文151 "
関西支部	1月18日(木)	海外事情講演会 会員懇談会	大阪市	11月号本文138 "
	1月18日(木)		同	11月号本文138 "
	1月25日(木) ~26日(金)	有限要素法講習会 学生見学会	京都市	本号本文157 "
	1月29日(月)		神戸地区	本号本文156 "
	2月6日(火) ~7日(水)	有限要素法講習会 講習会「施工計画・管理の基礎」 構造物・施設の調査に関する研究会	京都市	本号本文157 "
	2月13日(火)		大阪市	本号本文154 "
	2月20日(火)	構造工学研究会	同	本号本文154 "
	3月15日(木) ~16日(金)		同	本号本文155 "
	3月19日(月) ~20日(火)	講習会	同	本号本文156 "
	6月1日(金)	年次学術講演会	同	本号本文155 "
中国四国支部	2月20日(火)	講習会 年次学術講演会	高知市	本号本文159 "
	5月24日(木) ~25日(金)		松江市	本号本文159 "
西部支部	1月27日(土)	沖縄特別講演会 支部総会 研究発表会	那覇市	本号本文160 "
	2月25日(日)		福岡市	本号本文160 "
	2月25日(日)		同	本号本文160 "
そ の 他	1月26日(金)	「水力学・水理学研究の最近の動向と混相流研究所について」のシンポジウム 第11回原子力総合シンポジウム 第2回岩の力学講演会 河川災害に関するシンポジウム 第18回材料強度と破壊国内総合シンポジウム	東京	本号本文143 "
	2月15日(木) ~16日(金)		同	本号本文144 "
	2月16日(金)		同	本号本文144 "
	2月17日(土)		同	本号本文143 "
	4月4日(水)		同	本号本文146 "
お 知 ら せ	■昭和47年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集			本号本文136 "
	■第4回海洋開発シンポジウム講演募集			本号本文141 "
	■第10回理工学における同位元素研究発表会論文募集			本号本文147 "

支 部 所 在 地

北海道支部：郵便番号 060・札幌市中央区南1条西2丁目・長銀ビル5階 (電 011-251-7038)
 東北支部：郵便番号 980・仙台市二日町 18-25・丸セリ3階 (電 0222-22-8509)
 関東支部：郵便番号 160・東京都新宿区四谷1丁目・土木学会総務課内 (電 03-351-4133)
 中部支部：郵便番号 450・名古屋市中村区笹島町1丁目 232番地 近畿日本鉄道(株)
 鉄道総局名古屋営業局施設部庶務課内 (電 052-582-3311・内線 251)
 関西支部：郵便番号 541・大阪市東区船場中央2丁目2番地・船場センタービル4号館409号
 (電 06-271-6686)
 中国四国支部：郵便番号 730・広島市基町 10番3号・自治会館内 (電 0822-21-2666)
 西部支部：郵便番号 810・福岡市中央区薬院2丁目14番21号 (電 002-78-3716)

昭和 47 年度土木学会賞候補なら

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。表彰規程および下記賞のうちの功績賞については公募いたしません。

◎ 土木学会賞候補募集要項

種別	項目	技 術 賞	論 文 賞
候補対象		土木事業の計画、設計または施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な業績を対象とし、次の各項について選考する。 1. 土木事業の計画、設計または施工等に関する業績 2. 土木事業の計画、設計、施工等に関する総合的な業績	(論文賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を發表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたもの。 (論文奨励賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を發表し、これが土木工学における学術、技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者の年令が昭和48年5月31日において満36才未満である者。
受賞候補者		個人または団体。	本会会員(名誉会員、正会員、学生会員)に限る。 過去の受賞者は、論文賞、論文奨励賞の種別における同一の賞の候補者になることができない。 昭和39年以前の旧制度による土木賞受賞者は既受賞者とみなす。 共著者(共同研究者)の中に非会員、既受賞者、その他受賞候補者になることができない者が含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。 共著者(共同研究者)を受賞候補者からはぶいて推薦する場合は、必ず受賞候補者の当該論文(研究)に対する貢献度を具体的に明記すること。
候補の範囲		昭和46年1月1日から昭和47年12月31日までの間にできた業績であって日本国内において実施されたものに限る。	昭和46年1月1日から昭和47年12月31日までの間に發表されたもので、土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に登載されたもののほか、他学・協会、大学、官公庁、会社などの刊行物に登載されたものを含む。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が發表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における發表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。
推薦(応募)の方法		推薦者は、会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とする。 推薦者は、別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は、会員(個人、団体)、支部その他一般とするが、会員みずからの応募であってもよい。 推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に發表されている場合は、推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と、別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。 <p style="text-align: right;">(推薦および関係用紙は土木学会本部または各支部に準拠)</p>
審査		表彰委員会において行なう。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求めることがある。
表彰		第59回通常総会において行ない、賞牌、賞状を贈る。	第59回通常総会において行ない、賞牌、賞状、賞金を贈る。
締切日			昭和 48 年 1 月 20 日
提 出		東京都新宿区四谷1丁目土木学会表彰委員会	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会論文賞選考委員会

びに吉田研究奨励金候補の募集

募集要項をご参照のうえ、ふるって推薦または応募されますようお願いいたします。ただし、土木学会

吉 田 賞	田 中 賞
<p>コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なった者に授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計・施工・考案などの報告またはそれらの要旨が掲載されたものの中から選ばれる。</p>	<p>(論文) 橋梁およびその他の構造物に関する研究成果を含む論文、報告等を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。 (作品) 鋼およびコンクリートなどの橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有する物を対象とし、原則として次の各グループについて、選考する。 (1) 長大橋梁 (2) 中小橋梁 (3) その他特殊橋梁および橋梁に関連するもの。</p>
<p>個人または研究グループ。 ただし、外国国籍の者は、本会会員であって、その候補対象を土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に発表した者に限る。 また、過去の吉田賞受賞者は重ねて吉田賞候補となることができない。共著者(共同研究者)のうち既に受賞者その他受賞候補となることのできない者が含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはじめて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。</p>	<p>(論文) 個人またはその複数。 ただし、外国国籍を有する者の論文については、日本において最初に発表されたものに限る。 また、過去の田中賞受賞者は重ねて田中賞候補となることができない。共著者(共同研究者)のうち既に受賞者その他受賞候補となることのできない者が含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはじめて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。 (作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。</p>
<p>昭和46年1月1日から昭和47年12月31日までの間に発表されたものとする。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。</p>	<p>(論文) 昭和46年1月1日から昭和47年12月31日までの間に各種刊行物に発表されたものとする。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。 (作品) 昭和46年1月1日から昭和47年12月31日までの間に完成した構造物で、日本人により計画、設計あるいは施工されたものに限る。 なお、完成の時期については、原則的には普通の橋梁等では、供用開始のとき、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、そのもの自身の完成したと見なされるときとする。</p>
<p>推薦者は、会員、その他一般とする。 推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文報告集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。 してありますから必ずその用紙を使用して下さい)</p>	<p>(論文) 推薦者は、会員、支部、その他一般とする。また自らの応募でもよい。推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は、推薦書に添えて審査に必要な資料25部を提出しなければならない。 (作品) 推薦者は、会員、支部、その他一般とし、受賞候補に関与した当事者であってもよい。 推薦者は、別に定める推薦調書1部を提出する(写真は25枚添付すること)。</p>
<p>吉田賞選考委員会において行なう。</p>	<p>田中賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときは、さらに関係資料の提出を求めることがある。</p>
<p>第59回通常総会において行ない、賞牌、賞状、賞金を贈る。</p>	<p>第59回通常総会において行ない、論文部門受賞者に対しては、賞牌、賞状、賞金を贈る。</p>
<p>東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会</p>	<p>東京都新宿区四谷1丁目 土木学会田中賞選考委員会</p>

土木学会表彰規程

(総則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

(賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(総称)を授与して行なう。

1. 功績賞 2. 技術賞 3. 論文賞 4. 吉田賞 5. 田中賞

(功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものに授与する。

(技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

(論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

(2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として受賞時に満36才未満であるものに授与する。

(吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったと認められるものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似的刊行物に研究論文、設計、施工、考案等の報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。

(田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

- (1) 論文：橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究結果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。
 (2) 作品：橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その他特殊橋梁に関連あるもののグループ別に選ばれる。

(委員会)

第8条 土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。

1. 表彰委員会 2. 論文賞選考委員会 3. 吉田賞選考委員会 4. 田中賞選考委員会

- (2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補を決定する。
 (3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行なう。
 (4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行なう。
 (5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行なう。
 (6) 前記各委員会の構成、運営、その他については別に内規で定める。

(賞の決定、表彰の時期・方法)

第9条 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行なう。

◎吉田研究奨励金候補の募集

1. 候補対象：コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事する者で、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、授与される者が、原則として満40才以下の者に限り、かつ、特殊な場合を除き、同一研究計画に対しすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

2. 募集題目

- (1) 要望課題：コンクリート、鉄筋コンクリートまたはプレストレストコンクリートにおける複合機構に関する研究
 (2) 自由課題：

3. 募集の方法：日本の国籍を有する個人または研究グループの応募による。

4. 研究成果の報告：研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか、昭和49年10月中旬施行の第29回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

5. 応募の方法：一定様式による研究計画書1部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用して下さい)

6. 審査：吉田賞選考委員会において行なう。

7. 締切期日：昭和48年1月20日

8. 提出先：郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

◎昨年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功績賞：稲浦鹿蔵、田中茂美 土木工学ならびに土木事業の進展

技術賞：日本国有鉄道大阪新幹線工事局 山陽新幹線六甲トンネルの建設一高圧湧水を伴う大断層破砕帯突破工法一
 大阪府土木部 大阪高潮対策事業としての安治川大防潮水門

論文賞：原田 実 貨物輸送近代化に伴う最適輸送配分とネットワーク上の適正配置についての研究

論文奨励賞：渡辺 啓行 フィルダムの地震応答解析法に関する一連の研究(総合題目)

武内 等 確率モデルによる多孔体内のシミュレーション

太田 秀樹 異方圧密粘度の状態曲面について(英文)

吉田賞：後藤 幸正 鉄筋コンクリートの付着およびびわれに関する研究(総合題目)

田中賞：論文部門 該当なし。作品部門 山陽新幹線吉井川橋りょうおよび京浜大橋

“地震応答解析と実例”講習会

▶ 2月6日(火)～7日(水) ◀

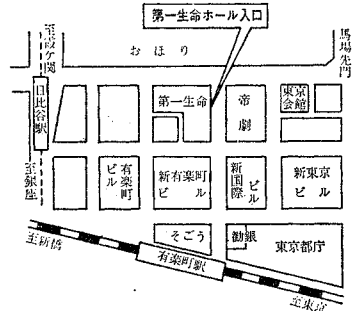
地震応答解析の基礎的事項と各種構造物に対する適用例を紹介する目的をもって耐震工学委員会において作成中でありました“地震応答解析と実例”が近く刊行(48年1月末の予定)されることになりました。

つきましては、同書の刊行を機会に標記講習会を下記により開催致しますので、多数ご参加下さいませようご案内いたします。

1. 期 日：1973年2月6日(火)～7日(水)の2日間
2. 会 場：第一生命ホール
(東京都千代田区有楽町 1-9 電話(03)216-3810
国電有楽町駅下車)
3. 参加費(テキスト代を含む)：
会員 6000円, 非会員 6500円

◎テキスト：地震応答解析と実例, B5判, 470ページ

4. 定 員：500名
5. 申込方法：参加ご希望の方は、①氏名、②勤務先および所属、③連絡先住所、④会員区分、を明記のうえ参加費を同封し、現金書留便にて下記宛お申込み下さい。
なお、定員がありますのでなるべくお早目にお申込み下さい。
6. 申込締切期限：1973年1月27日(土)
7. 申 込 先：〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事業課 電話(03)351-5139
8. 題目および講師：



<会場略図>

2月6日(火)

9.30～9.40	開会あいさつ	土木学会耐震工学委員会委員長 岡本 舜三
9.40～10.00	第1章 概 説	国鉄構造物設計事務所 田村 浩一
10.00～11.00	第2章 振 動 論	電力中央研究所 桜井 彰雄
11.00～12.00	第3章 地盤の振動特性	国鉄鉄道技術研究所 小林 芳正
12.00～13.00	昼 食 休 憩	
13.00～14.00	第4章 地震外力	運輸省港湾技術研究所 土田 肇
14.00～14.30	第5章 理想化された構造系	建設省土木研究所 栗林 栄一
14.30～15.00	第6章 地震応答解析の方法	建設省土木研究所 栗林 栄一
15.00～16.00	第7章 構造材料と土の動的特性	八千代エンジニアリング 小寺 重郎 東京大学工学部 石原 研而
16.00～16.30	第8章 解析結果に対する評価	東京大学生産技術研究所 久保慶三郎

2月7日(水)

9.30～11.00	第9章 橋 梁	建設省土木研究所 岩崎 敏男
11.00～12.00	第10章 グ ム	電源開発土木試験所 馬場 恭平
12.00～13.00	昼 食 休 憩	
13.00～13.30	第11章 土 構 造	国鉄構造物設計事務所 田村 浩一
13.30～14.30	第12章 港湾構造物	運輸省港湾技術研究所 林 聡
14.30～15.30	第13章 電力施設	東京電力技術開発研究所 野口 俊郎
15.30～16.00	第14章 都市施設	東京都水道局 中川 義徳
16.00～16.30	第15章 その他の構造物	電力中央研究所 桜井 彰雄

地震工学文献目録集(第2回)頒布

1970年1月～1971年12月までに発表された和・洋雑誌、講演集、大学・研究機関の報告書などから地震工学の関連文献を収録したものです。

記

体裁・頒価：B5判 28ページ 200円(千50円)

申込方法：頒価に送料をつけ、土木学会刊行物係(東京都新宿区四谷1丁目)へお申込み下さい。

第 8 回 岩盤力学に関するシンポジウム

▶ 2 月 21 日 (水) ~ 22 日 (木) ◀

標記シンポジウムを下記により開催致しますので、多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日：1973 年 2 月 21 日 (水) ~ 22 日 (木)
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂 (東京都新宿区四谷 1 丁目無番地)
3. 主 催：土木学会岩盤力学委員会
4. 参 加 費：無料
5. 講 演 概 要：会場にて実費頒布致します (定価未定)
6. プログラム：(○印は講演者, 講演時間には討議を含みます)

第 1 日：2 月 21 日 (水)

- | | | |
|---------------|--------------------------------------|--|
| 9.30 ~ 9.40 | 開会あいさつ | 土木学会岩盤力学委員会委員長 岡本舜三 |
| 9.40 ~ 10.10 | (1) トンネル周辺応力について | 熊谷組技術研究所 大塚本夫・○上野正高 |
| 10.10 ~ 10.40 | (2) 岩盤の動的くりかえし変形特性と地震時応答解析 | 電力中央研究所 ○林 正夫・北原義浩・藤原義一・駒田広也 |
| 10.40 ~ 10.50 | 休 憩 | |
| 10.50 ~ 11.50 | (特別講演-I) 地形と災害 (仮題) | 東京都立大学教授 中野尊正 |
| 11.50 ~ 13.20 | 昼食・休憩 | |
| 13.20 ~ 13.50 | (3) 表面波を受ける埋設管の動的挙動について | 神戸大学工学部 桜井春輔・神戸大学大学院 ○梶 太郎 |
| 13.50 ~ 14.20 | (4) 岩石の一軸圧縮試験における破壊様式と強度について | 東北大学工学部 佐武正雄・○田野久貴 |
| 14.20 ~ 14.50 | (5) 岩盤の複合破壊を考慮した応力解析 | 名古屋大学工学部 ○斎藤敏明・川本聡夫 |
| 14.50 ~ 15.00 | 休 憩 | |
| 15.00 ~ 15.30 | (6) 三次元地山荷重下の近接した二個の円形トンネル周辺における応力状態 | 山梨大学工学部 ○平島健一・神戸大学大学院 久武勝保 |
| 15.30 ~ 16.00 | (7) 岩石強度と岩目の関係 | 国鉄鉄道技術研究所 池田和彦・○小林芳正
国鉄仙台新幹線建設局 桜井 孝 |
| 16.00 ~ 16.30 | (8) 現地載荷試験時における岩盤のゆるみと挙動特性の関係 | 建設省土木研究所 飯田隆一・小林茂敏 |
| 16.30 ~ 17.00 | (9) 高圧孔内載荷試験機の開発と岩盤への利用結果 | 本州四国連絡橋公団 相良正次・高橋幸蔵・宮島圭司・応用地質調査事務所 ○武内俊昭 |

第 2 日：2 月 22 日 (木)

- | | | |
|---------------|--|--|
| 9.30 ~ 10.00 | (10) 大平山トンネルの電気探査について | 京都大学工学部 吉住永三郎・菅野 強・鹿島建設 佐藤忠五郎・渋谷長美・○西浦勝龜 |
| 10.00 ~ 10.30 | (11) 大平山トンネル峇谷における孔中地震計による地質調査 | 京都大学防災研究所 吉川宗治・鹿島建設 佐藤忠五郎・渋谷長美・○田村 計 |
| 10.30 ~ 10.40 | 休 憩 | |
| 10.40 ~ 11.40 | (特別講演-II) 高圧下の岩石破壊 (仮題) | 東京大学教授 茂木清夫 |
| 11.40 ~ 13.00 | 昼食・休憩 | |
| 13.00 ~ 13.30 | (12) 紅葉山線における膨張性土圧の測定について | 日本鉄道建設公団計画部 谷 健史 |
| 13.30 ~ 14.00 | (13) 水路トンネル岩圧 (主として膨張性~押し出し性) の実測例とそのメカニズムに関する考察 | 農林省農業土木試験場 仲野良紀 |
| 14.00 ~ 14.30 | (14) 新高瀬川発電所地点における初期地圧の測定結果について | 東京電力高瀬川水力総建設所 御牧陽一 |
| 14.30 ~ 14.40 | 休 憩 | |
| 14.40 ~ 15.10 | (15) 地下発電所の変形測定方法と結果について | 関西電力奥多々良木水力発電所建設所 錦織達郎 |
| 15.10 ~ 15.40 | (16) 未溶結阿蘇溶石のグラウチングについて | 建設省土木研究所 柴田 功・建設省九州地方建設局河川部 ○田原正清 |
| 15.40 ~ 16.10 | (17) ロックボルトの施工実績と考察 | 国鉄新幹線建設局 斎藤 徹・国鉄広島新幹線工事局松永工事区 ○曲尾理三郎 |
| 16.10 ~ 16.20 | 閉会あいさつ | |

ダム基礎岩盤グラウチングの施工指針

●定価 900 円・会員特価 800 円 (〒 90 円) ●

第4回海洋開発シンポジウム講演募集

▶ 5月12日(土) ◀

今回のシンポジウムは会員よりのご提案により、委員会としての話題提供とともに、公募方式により講演発表を行なうことになりました。一段と充実した内容となると考えられます。講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日: 1973年5月12日(土)
2. 会 場: 土木学会土木図書館講堂
3. 主 催: 土木学会海洋開発委員会
4. 講演申込締切: 1973年2月10日(水)
5. 講演原稿締切: 1973年4月15日厳守

シンポジウムプログラムは、学会誌1973年3・4月号にて発表致します。

6. 講演発表申込み: 講演発表希望者は、題目、講演要旨(500字程度)講演者氏名(連名のときは発表者に○印)、勤務先、連絡先等を記入のうえ、土木学会海洋開発委員会(新宿区四谷1丁目)あてお申込み下さい。折返し当学会所定の原稿用紙をお送り致します。
なお、講演の採否については、海洋開発委員会にご一任下さい。

第7回土木計画学シンポジウム参加者の募集

▶ 1月24日(水)~同25日(木) ◀

今回のシンポジウムは、すでに実施して参りました第1回~第6回の土木計画学シンポジウムにおける土木計画学の総合化・システム化に関する成果をふまえ、さらに新たな展開をはかる意味で「環境問題と土木計画学」を主題とするとともに、課題報告の公募方式をとることとしました。今般公募に応じられた課題を中心として下記のようなシンポジウムを開催することとなりましたので、この方面に関係ある各位のご参加をひろくおすすめいたします。

1. 期日およびプログラム: 1973年1月24日(水)~25日(木)

第1日(1月24日)

- | | | |
|-----------------|----------------------------|--------------------|
| 9.30~9.40 | 開会あいさつ | 菅原 操 |
| 9.45~10.15 | 今回のシンポジウムの趣旨 | 担当幹事 |
| 1. 環境の計測(把握)と予測 | | 司会・末石富太郎 |
| 10.20~11.20 | 生活圏の画定と拠点都市の環境に関する研究 | 小川博三・○五十嵐日出夫 |
| 11.20~12.20 | 潜在廃棄物を対象とした物的環境調査
<昼 食> | 末石富太郎・和田和彦・○盛岡 通 |
| 13.30~14.30 | 環境情報の収集と自動処理 | ○村井俊治・大林成行・田中総太郎 |
| 14.30~15.30 | 土木計画における景観問題とその調査法 | ○中村良夫・樋口忠彦 |
| 2. 環境の評価 | | 司会・中村良夫 |
| 15.30~16.30 | 都市内交通安全施設の視覚的評価に関する研究 | 市川 宏・○小林 爽・村田隆裕 |
| 16.30~17.30 | 地域における大気汚染による社会的費用に関する一考察 | 森杉寿彦・○若井郁次郎・○林 恒一郎 |

第2日(1月25日)

- | | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 3. 環境と計画 | | 司会・中村良夫 |
| 9.30~10.30 | 土地利用計画における機能・環境情報の総合化に関する研究——阪神間沿岸地域におけるケーススタディー—— | 春名 攻 |
| 10.30~12.00 | 道路と都市環境に関する調査研究 <昼 食> | 広瀬盛行・堀江 興・○村橋正武・○矢島 隆・田村幸久・○太田勝敏 |
| 4. 総合討議 | | 司会・末石, 中村 |
| 13.00~16.00 | 討議(問題提起はワーキンググループが行ないます) | |
| 16.00~16.20 | 第7回土木計画学シンポジウムのまとめ | 菅原 操 |
| 16.20~16.30 | 閉会あいさつ | 米谷栄二 |

2. 会 場: 土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目, 外濠公園内)
3. 主 題: 環境問題と土木計画学——土木計画における環境調査の方法——
4. 参加申込方法: ①官職氏名, ②連絡先(郵便番号・住所/勤務先・自宅の区分明記のこと), ③会員区分等を記入したはがきにて1973年1月10日までに下記あて申込んで下さい。おりかえし参加票をお届けいたします。

〒160/東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局土木計画学シンポジウム係
(電話(03)351・5130番)

5. 参 加 費: 会員 2000円, 会員外 2500円
(ただし、シンポジウム参加費, 同前副代, 同プロシーディング<6月~8月頃完成予定>の諸費用を含みます)

第 9 回衛生工学研究討論会

▶ 1 月 29 日 (月)~30 日 (火) ◀

下記により標記研究討論会を開催いたしますので、多数ご出席下さるようご案内いたします。

1. 日 時：1973 年 1 月 29 日 (月), 30 日 (火) の 2 日間
2. 場 所：東北大学工学部共通第 2 教室 (仙台市荒巻字青葉)
3. 参 加 費：無 料
4. 講演論文集：2 300 円 (送料 200 円) 事前入手希望の方はご送金下さればお送りします。

1 月 29 日 (月)

9.00~9.10	開 会 挨拶	衛生工学委員会委員長	左合 正雄
9.10~9.15	説 明	司 会 者	
9.15~9.45	水理学研究試験	東 大 市川 新	
9.45~10.15	Mn ₂ O ₃ によるマンガンの除去に関する研究	山形衛生研	堀岡 正和
10.15~11.45	汚濁河川における有機物の挙動についての研究 (石狩川についての一考察)	北 大 那須義和・楠 治國	
	富栄養化の指標としての Alkaline Phosphatase について	東北大	佐藤敦久・平田 強・千葉信男
	環境制御指標としての水質マトリックス	北 大	丹保憲仁・亀井 翼
11.45~12.45	休 憩		
12.45~13.30	環境制御のための計量化について	環境問題小委員会	
13.30~15.00	メッシュ法による汚濁分析と水質物質の流出率に関する検討 (京都市内河川を例として)	京 大 末石富太郎・住友 恒 松尾直視	
	下水道整備計画に関するシステム論的研究 I (とくに河川汚濁制御と面整備について)	日水コン	堤 武・大門良巳・中村正久
	下水道整備計画に関するシステム論的研究 II (とくに線整備について)	日水コン	堤 武・平野栄一・中村正久・大門良巳
15.00~15.15	休 憩		
15.15~15.45	配水管網内滞留時間と流向変化について	北 大	高桑哲男
15.45~17.15	高分子凝集補助剤を用いたフロクキュレーションに関する基礎的研究	九 大	楠田哲也
	活性汚泥の沈降性状に関する基礎的研究	公衆衛生院	真柄泰基・北大 宇土沢光賢
	高濃度凝集性粒子群の沈降特性	北 大	丹保憲仁・宇土沢光賢

1 月 30 日 (火)

9.00~9.30	汚泥消化におよぼす重金属類の影響について	東北大	松本順一郎・野池達也
9.30~10.30	活性汚泥におよぼす重金属の影響 (下水中の重金属の存在形態について)	北 大	寺町 和宏・藤嶋正紀
	下水処理場での重金属の挙動	東 大	山岸昇夫
10.30~12.00	活性汚泥の基質代謝におよぼす培養 F/M の影響	東北大	松本順一郎・江成敏次郎
	活性汚泥のタンパク質, 核酸の合成およびグリコーゲンの蓄積について	北 大	加藤善盛・井上雄三
	BOD 試験に関する研究 (第 3 報) 還滞現象	東 大	市川 新・横山道子
12.00~13.00	休 憩		
13.00~14.00	超高率散水戸床に関する基礎的研究	早 大	遠藤郁夫・野田典宏
	散水戸床の浄化機構に関する二, 三の考察	東北大	松本順一郎・東北学院大 長谷川信夫・三機工業 小林浩志
14.00~15.00	下水の生物学的な高度処理に関する研究 (フロック形成メタン酸化性細菌による窒素, リンの除去)	阪 大	橋本 奨・藤田正憲・古川憲治・河井洋子
	石灰凝集沈殿によるリン除去 (第 1 報)	建設土研	柏谷 衛・京才俊則
15.00~16.00	水質の変化とその予報に関する研究 (成層流における水質変化について)	京 大	合田 健・海老瀬潜一
	汚泥の管路流動に関する基礎的研究 (I)	早 大	遠藤郁夫・金成英夫
16.00~16.10	第 9 回衛生工学研究討論会総括		左合正雄
16.10~16.20	閉 会 挨拶	東北大	松本順一郎

土木技術者のための岩盤力学 <三版>

●定価 3 600 円・会員特価 3 000 円 (〒 200 円) ●

第17回水理講演会

▶ 2月16日(金)~17日(土) ◀

標記講演会を下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 期 日：1973年2月16日(金)~17日(土)
2. 会 場：発明会館ホール(東京都港区芝西久保明舟町17, 地下鉄虎ノ門下車徒歩3分)
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 参 加 費：聴講無料
5. 講 演 集：当日会場にて実費頒布
6. プログラム：

第1日：2月16日(金)

- | | | |
|-------------|----------------------------------|--|
| 9.30~9.40 | 開会挨拶 | 水理委員会委員長 吉川 秀夫 |
| 9.40~10.00 | (1) ダム貯水池の成層化と取放水の影響について | 京都大学 岩佐 義朗・○井上和也・野口正人 |
| 10.00~10.20 | (2) 密度成層水域中におけるプルームの浮上・拡散について | 中央大学 林 泰造・○伊藤正樹 |
| 10.20~10.40 | (3) 周期変動密度流の乱れと拡散 | 東京工業大学 日野幹雄・○高須修二 |
| 10.40~11.10 | (1)~(3) 討議 | |
| 11.10~11.20 | 休 憩 | |
| 11.20~12.00 | (4) 「特別講演」密度流の問題について | 東京大学地震研究所 梶浦欣二郎 |
| 12.00~13.00 | 昼 食 休 憩 | |
| 13.00~13.20 | (5) 土木学会水理委員会密度流研究小委員会活動報告 | 小委員会委員長 岩崎敏夫 |
| 13.20~13.40 | (6) 成層流境界面における内部波および混合の特性に関する一考察 | 東京大学 ○玉井信行・西村 司 |
| 13.40~14.00 | (7) 界面内波の干渉について | 浜田徳一 |
| 14.00~14.20 | (8) 混合を伴う内部ジャンプについて | University of Waterloo Waterloo, Ontario Canada ○早川典生・Heinz Stafan |
| 14.20~14.50 | (6)~(8) 討議 | |
| 14.50~15.00 | 休 憩 | |
| 15.00~15.20 | (9) 淡水注入による地盤中の淡水境界面解析の一手法 | 九州大学 上田年比古・○杉尾 哲 |
| 15.20~15.40 | (10) 河口流出の力学的機構 | 北海道大学 柏村正和 |
| 15.40~16.00 | (11) 風波による水温成層の混合過程 | 電力中央研究所 和田 明・○片野尚明 |
| 16.00~16.20 | (12) 塩分拡散を伴う内部境界面の形状 | 京都大学 南 勲 |
| 16.20~17.00 | (9)~(12) 討議 | |

第2日：2月17日(土)

- | | | |
|-------------|---------------------------------|--|
| 9.00~9.20 | (13) 山腹における降雨の滲透と流下について | 新潟大学 岡本芳美 |
| 9.20~9.40 | (14) 急勾配流れの限界掃流力に関する研究 | 京都大学 芦田和男・大阪府立工業高等専門学校 ○大同淳之
京都大学 高橋 保・水山高久 |
| 9.40~10.00 | (15) 堆積物の集合流動の発生限界 | 大阪府立工業高等専門学校 大同淳之 |
| 10.00~10.30 | (13)~(15) 討議 | |
| 10.30~10.40 | 休 憩 | |
| 10.40~11.00 | (16) 都市河川の洪水追跡手法について | 大阪大学 室田 明・神田 徹・○江藤剛治 |
| 11.00~11.20 | (17) 都市化による流出の変化について | 建設省土木研究所 木下武雄・吉野文雄・橋本 健・○米田耕造 |
| 11.20~11.40 | (18) 実測資料からみた都市流出特性とその問題点 | 建設省土木研究所 ○山口高志・松原重昭 |
| 11.40~12.00 | (19) 開水路網が内水排除におよぼす影響に関する実験について | 建設大学校 伊藤秀夫 |
| 12.00~12.30 | (16)~(19) 討議 | |
| 12.30~12.35 | 閉会挨拶 | 水理委員会委員長 吉川秀夫 |

河川災害に関するシンポジウム

▶ 2月17日(土) ◀

第17回水理講演会終了後、水理委員会後援のもとに標記シンポジウムを開催致しますので多数ご参加下さい。

1. 日 時：1973年2月17日(土) 13.30~17.00
2. 会 場：発明会館ホール(東京都港区芝西久保明舟町17・地下鉄虎ノ門下車徒歩5分)
3. プログラム：未 定

第 2 回岩の力学講演会開催のお知らせ

▶ 2 月 16 日 (金) ◀

第 2 回岩の力学講演会を下記により開催致しますので、ふるってご参加下さいませようご案内致します。

- 主 催：日本学術会議・力学研究連絡委員会
 共 催：土質工学会・土木学会（幹事学会）・日本材料学会・日本鉱業会
- 開催期日：1973 年 2 月 16 日 (金) 9.30～17.00
 - 会 場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34、電話 03-403-6291、地下鉄千代田線・乃木坂下車、都バス四谷一品川間 (507)・南青山 4 丁目下車）
 - 題目および講師：

テーマ：現場における岩盤計測と設計・施工への応用

9.30～9.40	開会あいさつ	
9.40～10.40	(1) 岩盤調査の結果が施工にどのように生かされるか	国鉄鉄道技術研究所 池田 和彦
10.40～11.40	(2) 鉱山における岩盤計測の実例	通産省公害資源研究所 高多 明
11.40～12.40	昼 食・休 憩	
12.40～13.40	(3) 近接爆破に対する空洞の安全性の検討と設計・施工への応用	京都大学工学部 伊藤一郎・佐々宏一
13.40～14.40	(4) ダム基礎における岩盤計測とその設計・施工への応用	東京電力高瀬川水力建設本部 藤井 敏夫
14.40～14.50	休 憩	
14.50～15.50	(5) 橋梁基礎における岩盤調査の実施例——海底岩盤調査へのアプローチ——	本州四国連絡橋公団 吉田 巖 電力中央研究所 日比野 敏
15.50～16.50	(6) 地下発電所における岩盤計測とその設計・施工への応用	
 - 参加費（予稿集代を含む）：一般 2000 円、学生 1500 円
 - 参加申込要領：参加希望者は、(1) 氏名、(2) 勤務先および職名、(3) 連絡先住所を明記のうえ、参加費を添えて 1973 年 2 月 5 日までに、現金書留にて下記宛お申込み下さい。
 - 申 込 先：〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会事業課 電話 03-351-5139

第 11 回原子力総合シンポジウム

▶ 2 月 15 日 (木)～16 日 (金) ◀

標記シンポジウムを原子力関連学協会の共同主催により下記により開催致しますので多数ご参加下さい。

- 主 催：「原子力総合シンポジウム」運営委員会（日本原子力学会内）
- 期 日：1973 年 2 月 15 日 (木)、16 (金) の 2 日間
- 場 所：国立教育会館（千代田区霞ヶ関 3-2-3 Tel. 03-580-1251）大会議室、中会議室
- 参加費：300 円（学生 200 円）予稿集 500 円（予定）
- プログラム：

第 1 日 2 日 15 日 (木) A 会場 大会議室

9.30～10.00	開 会 の 辞	運営委員長 柴田 俊一
	開 会 挨拶	日本原子力学会長 武田 栄一
10.00～10.45	特 別 講演	座長 東大 武田 栄一
		原子力委員長代理 井上 五郎
10.45～11.30	講演 1. 原子力産業と環境放射線	座長 京大 柴田 俊一 放医研 渡辺 博信
11.30～12.30	昼 休	
12.30～15.00	総合講演 1. 原子力におけるトリチウム	座長 原研 石原 豊秀 座長 住友金属 丸山 正倫
	(1) 序論と発生源 (30 分)	近大原研 河合 広
	(2) 測 定 法 (20 分)	放医研 櫻田 義彦
	(3) 防 護 (20 分)	原研 吉田 芳和
	(4) 生 物 影 響 (20 分)	東大 秋田 康一
	(5) 質 疑 (60 分)	
15.00～16.40	総合講演 2. 高速炉ナトリウム技術開発の現状と問題点	座長 京大 岐美 格
	(1) 研究開発の背景 (20 分)	原研 古川 和男
	(2) 技術開発の現状と将来 (30 分)	動燃 齋藤 良平
	(3) パネル・ディスカッション (50 分)	
16.40～18.20	総合講演 3. 高温ガス炉の開発と技術的展望	座長 東工大 鈴木 弘茂

- (1) 海外における高温ガス炉開発の現状 (30分) 原電 立花 昭
- (2) 多目的高温ガス炉の研究開発 (30分) 原研 石川 寛
- (3) 高温ガス利用技術の研究開発 (30分) 新日鉄 下川 敬治
- (4) 質 疑 (10分)

B会場 中会議室

- 13.00~15.00 総合講演 4. 原子力船関係 座長 日立造船 木下 昌雄
三井造船 入江正彦・○水関守史
船研 ○横村 武宣
日立造船 ○山田 毅
原船団 川口千代二
商船三井 佐々田喜正
- (1) 330 MWt 一体型軽水船用炉概念設計 (第1年度) (45分)
 - (2) 原子力船“むつ”の出力上昇試験 (中間報告) (30分)
 - (3) 80,000 shp 原子力コンテナ船の経済性 (30分)
 - (4) 質 疑 (15分)
- 15.00~16.40 総合講演 5. LINAC における原子力の研究 座長 北大 小沢保知
- (1) 炉物理に関する研究 (20分) 京大炉 藤田 薫顕
 - (2) 核データに関する研究 (20分) 原研 浅見 明
 - (3) 照射に関する研究 (20分) 大放研 岡部 茂
 - (4) 大学における研究と展望 (20分) 東北大 木村 一治
 - (5) 質 疑 (20分)
- 16.40~18.20 総合講演 6. 公害対策における放射線利用 座長 原研 重松 友道
- (1) 化学汚染水の放射線照射処理 (30分) 大放研 砂田 毅
 - (2) 放射線による PCB の崩壊 (30分) 都ア研 篠崎 善治
 - (3) プラスティックの放射線による崩壊 (30分) 原研 萩原 幸
 - (4) 質 疑 (10分)

第2日 2月16日(金) A会場 大会議室

- 9.30~12.00 総合講演 7. 軽水炉大型化の課題 座長 原研 天野 昇
- (1) 原子力プラント大型化の現状 (25分) 原電 野木 照雄
 - (2) 大型化における材料の課題 (25分) 日本製鋼 小野寺真作
 - (3) 製造上の課題 (25分) 三菱重工 氏家 昭
 - (4) 大型構造の品質保証の課題 (25分) 石播 天野 牧男
 - (5) 研究開発の課題 (25分) 東大 安藤 良夫
 - (6) 質 疑 (25分)
- 12.00~13.00 昼 休
- 13.00~14.15 総合講演 8. プレストレストコンクリート圧力容器 座長 東大 国分 正胤
- (1) PC圧力容器のわが国における研究開発の現状と問題点 (20分) 電力中研 永倉 正
 - (2) 多腔円筒(マルチャキャビティ)型 PCPV の模型実験 (20分) 鹿島建設 百島 祐信
 - (3) 円筒型 PCPV の大型模型実験 (20分) 電源開発 大西 外明
 - (4) 質 疑 (15分)
- 14.15~15.00 講演 2. UO₂ 共同研究委員会の照射試験報告 座長 原研 石原 健彦
- 動燃 中村 康治
- 15.00~17.00 総合講演 9. 炉型別にみた核燃料サイクルの現状と問題点 座長 東大 都甲 泰正
- (1) 核燃料サイクルの問題点 (30分) エネ研 武井 満男
 - (2) 水型炉の燃料サイクル (20分) 東大 古橋 晃
 - (3) 高速炉の燃料サイクル (20分) 動燃 橋松 邦彦
 - (4) 高温ガス炉の燃料サイクル (20分) 原研 安川 茂
 - (5) 核融合炉の位置 (20分) 原研 森 茂
 - (6) 質 疑 (10分)

B会場 中会議室

- 9.30~10.30 講演 3. 原子力発電所群と電力系統 座長 京大 若林 二郎
- 関電 中尾 孝
- 10.30~12.00 総合講演 10. 原子力分野におけるデータ処理システムの現状と問題点 座長 電総研 井上弥治郎
- (1) インターフェイスと CAMAC (25分) 原研 金原 節朗
 - (2) オンライン化とデータ伝送システム (25分) 武蔵工大 村田 裕
 - (3) ソフトウェア技術 (25分) 高エネ研 小野 厚夫
 - (4) 質 疑 (15分)
- 12.00~13.00 昼 休
- 13.00~15.00 総合講演 11. 原子力関係技術情報の流通 座長 原電 立花 昭
- (1) 技術情報の国際流通の現状 (20分) 原研 柴田 長夫
 - (2) 「情報流通」研究専門委員会の活動経過 (20分) 東大 三島 良積
 - (3) 流通システムのインプット (30分) 科技情センター 大井 正一
 - (4) 流通システムの利用 (30分) 放医研 櫻田 義彦
 - (5) 質 疑 (20分)
- 15.00~16.00 総合講演 12. 原子炉へのアコースティック・エミッション (A.E.) 技術の適用 座長 日本製鋼 野村 純一
- (1) 安全性監視 (25分) 東大生研 尾上 守夫
 - (2) 材料の A.E. 特性 (25分) 電力中研 仲佐 博祐
 - (3) 質 疑 (10分)

第 18 回材料強度と破壊国内総合シンポジウム

▶ 4 月 4 日 (水) ◀

破壊、疲労およびクリープなど強度上の諸問題は、物理学、化学、応用数学、金属学、材料学、材料試験、応用力学、機械設計など各分野に関連した Interdisciplinary な学問分野であります。そこで関連諸学会共催のもとに、毎年表記シンポジウムを開催してきましたが、今回は前回のように、最近の研究発表、総説、展望的解説、問題点の提起をふくめた選定講演を取り上げました。ふるってご参加下さい。

1. 共 催：日本学術会議 強度と破壊分科会、ほか関係学協会

2. 協 賛：土木学会、ほか関係学協会

3. 日 時：1973 年 4 月 4 日 (水) 9.15~17.40

4. 会 場：東京工業大学講堂（東急電鉄目蒲線・田園都市線大岡山駅下車徒歩 3 分）

5. プログラム：

Part I ミクロ（微視）とマクロ（巨視）の結びつきに関するシンポジウム		<座長> 中村 正久
9.20~9.50	(1) 遅れ破壊現象の転位論的解釈	大阪大学 藤田 英一
10.00~10.45	(2) 超高圧電子顕微鏡によるアプローチ	名古屋大学 井村 徹
		<座長> 宮本 博
10.55~11.45	(3) ミクロとマクロの結合力学的アプローチと破壊力学・き裂力学との関係について	東北大学 横堀 武夫
13.00~13.30	(4) 環境強度に対する材料強度学的アプローチ 同	東北大学 横堀 武夫 東北大学〇市川 昌弘
		<座長> 荒木 透
13.40~14.20	(5) 近接切欠の脆性破壊発生特性に関する実験的研究	神戸製鋼構造研 池田 一夫
14.30~15.05	(6) 強力鋼の遅れ破壊き裂の伝播挙動	金村技研〇青木 孝夫 同 金尾 正雄 東京大学 荒木 透

Part II 重複因子による強度と破壊に関するシンポジウム

		<座長> 鶴戸口英善
15.10~15.45	(7) 重複因子による破壊に対する確率論的アプローチ	電気通信大学 田中 栄
15.55~16.45	(8) クリープと高温疲労の相関性	京都大学 大谷 隆一
16.55~17.30	(9) 切欠き材の累積疲れ被害	東京工業大学 中沢 一

6. 参加費：無 料

7. シンポジウム論文集：1部 1000 円（送料共）。希望者は、代金を添えて 3 月 15 日までに下記へお申し込み下さい（以後は当日会場売り）

申 込 先：〒 980 仙台市大町 1-1-13（東活ビル内）日本金属学会 Tel. (0222) 25-3098

日本学術会議「水力学・水理学研究の最近の動向と混相流研究所について」のシンポジウム

▶ 1 月 26 日 (金) ◀

1. 日 時：1973 年 1 月 26 日 (金) 14.00~16.30

2. 場 所：東京都港区六本木 7-22-34 日本学術会議大会議室

3. 共 催：日本学術会議水力学・水理学研究連絡委員会、土木学会ほか関係学協会

4. プログラム：

14.00~14.10	開会の辞	日本学術会議水力学・水理学研究連絡委員会委員長	石原藤次郎
14.10~14.40	水力学・水理学の関連国際学会における研究活動について	中央大学教授	林 泰造
14.40~15.10	わが国における水力学・水理学長期研究について	京都大学教授	岩佐 義明
15.20~16.20	混相流研究所について	委員長 石原藤次郎・名古屋大学教授	古屋 善正
16.20~16.30	閉会の辞	委員長	石原藤次郎

第 10 回理工学における同位元素研究発表会—論文募集

関係諸学協会の共同主催で、標記の研究発表会を開催いたします。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。会員各位におかれてはふるってご応募、ご参加下さることを希望いたします。

1. 会 期：1973 年 4 月 17 日 (火)～19 日 (木)
2. 会 場：国立教育会館 (東京・虎の門)
3. 発表論文内容：それぞれの研究分野において、その専門的成果をうるにいたった同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文とします。
研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。
4. 発表申込み：所定の申込書 (1 件 1 通) により、お申込み下さい。所定の申込書は下記あて請求して下さい。
〒 113 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 45 号 日本アイソトープ協会内
理工学における同位元素研究発表会運営委員会 電話 (03) 946-7111
5. 発表申込締切：1973 年 1 月 31 日 (水) 必着
6. 共同主催：土木学会ほか関係諸学協会

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市中央区南 1 条西 2 丁目・長銀ビル 5 階)
電話 011-251-7038 振替 小樽 20603

(1) 年次研究発表会

▶ 2 月 15 日 (木)～16 日 (金) ◀

1. 期 日：1973 年 2 月 15 日 (木)～16 日 (金) <16 日は土質工学会北海道支部と同時に発表>
2. 会 場：札幌市民会館 3 階
3. 参加費：無料 (聴講を歓迎)
4. 論文発表プログラム：

2 月 15 日 (木) 第 1 会場

- | | | |
|----------|---|-------------------------------------|
| ① 9.20～ | 豊平峡谷ゲムの設計・施工について | 開発局 橋本 誠秀 |
| ② 9.35～ | 新冠地下発電所の設計・施工について | 北電 ○関口光永・南部節雄・尾野正也 |
| ③ 9.50～ | 外洋における釧路西港東防波堤施工の一例 | 大成建設 三浦秀雄・○富田幸雄・鏑原 勲・移川任教 |
| 10.05～ | 討 議 | |
| ④ 10.20～ | 交通車両による地盤振動防止工法 (舗装修繕工法) の効果について | 札幌 奥 弘治・○高橋陽一
土試 小林 繁・佐々木晴美・能登繁幸 |
| ⑤ 10.35～ | 森パイパスにおける特殊コンクリート舗装について—第 1 報— | 土試 ○豊島真樹・斎藤幸俊・久保 宏 |
| ⑥ 10.50～ | アスファルト舗装への砂鉄選鉱処理細骨材の有用性に関する研究 | 函館工専 宮内一光・山本 勲・斎藤秀光
釧路土現 萩原英三 |
| ⑦ 11.05～ | プレストレスしない連続合成ゲタの架設—石狩河口橋— | 札幌 ○新山 惇・高橋陽一
土試 大島 久 |
| 11.20～ | 討 議 | |
| ⑧ 11.40～ | 青函トンネル海底部工事のグラウト施工における問題点 | 鉄道公団 石崎 昭義 |
| ⑨ 11.55～ | 注水試験による岩盤の評価と注入計画 | 鉄道公団 北川 修三 |
| ⑩ 12.10～ | 青函トンネル・コンクリート吹付工法—乾式湿式比較試験の報告— | 鉄道公団 小暮 誠 |
| ⑪ 12.25～ | 札幌自動車道・張碓大橋の設計と施工について | 道路公団 名取庸雄・石井亮二・○直塚勝之 |
| ⑫ 13.30～ | 道内主要港湾の性質について | 日本工営 清水敏夫・北大 ○佐伯 浩・尾崎 晃 |
| ⑬ 13.45～ | 産業立地にもとづく地域間貨物輸送量計測に関する基礎的研究 | 北大 山村 悦夫 |
| ⑭ 14.00～ | 北海道, 東北地方の通勤通学交通について | 北大 小川博三・○小笠原真理 |
| 14.15～ | 討 議 | |
| ⑮ 14.30～ | 交通量と交通事故発生との関係に関する分析的研究—交通事故発生率の質的变化について— | 室工大 斎藤 和夫 |
| ⑯ 14.45～ | 除雪ルート探索に関する一考察 | 北大 ○榎谷有三・加来照俊 |
| 15.00～ | 討 議 | |
| ⑰ 15.20～ | 舗装の変形に関する研究—主として層構造の変形について— | 東亜道路工業 川野敏行
北大 菅原照雄・○森吉昭博 |
| ⑱ 15.35～ | 種々の載荷条件におけるアスファルト合材の圧縮特性について | 北大 ○上島 社・笹木国春 |
| ⑲ 15.50～ | 粗骨材に焼化頁岩を用いたコンクリートの圧縮強度についての二, 三の実験 | 専修大 常松 哲 |
| ⑳ 16.05～ | アスファルト混合物に関する実験研究手法の選択について | 北大 ○笠原 篤・菅原照雄 |
| 16.20～ | 討 議 | |
| 閉 会 | 16.40 | |

第 2 会場

- ②① 13.30～ 沖積地河川における水深—流量関係の予測 北大 ○岸 力・黒木幹男・今泉正次
- ②② 13.45～ 蛇行流と河道形状に関する研究 土試 ○山口 甲・西村 豊
- ②③ 14.00～ 急流河川の河道形状と護岸根固工について 土試 山口 甲・○上月 武・西村 豊・後藤 哲
- 14.15～ 討 議
- ②④ 14.30～ 利水制御のシステムモデルについて 土試 小森 保数
- ②⑤ 14.45～ マトリックス法による月降水量のシミュレーション—第 2 報— 北大 星 清
- ②⑥ 15.00～ 石狩川上流域の地形特性と積雪分布に関する研究 土試 山口 甲・○長谷川 茂・近藤幸雄
- 15.15～ 討 議
- ②⑦ 15.30～ 周期波による砕波に関する実験的研究 北見工大 ○佐藤幸雄・内島邦秀
- ②⑧ 15.45～ 砕波後の波の変形に関する研究 北大 佐伯 浩
- 16.00～ 討 議
- ②⑨ 16.10～ 透過性構造物の防波機能に関する 2, 3 の推定法について 室工大 ○藤間 聡・近藤徹郎
- ③⑩ 16.25～ 半透過性構造物の水利 室工大 ○小堀共生・近藤徹郎
- 16.40～ 討 議

2 月 16 日 (金) 第 2 会場

- ③⑪ 9.30～ 自然現象における生物力学の対比よりみた橋梁の進歩傾向に関する理論的一考察 室工大 中村作太郎
- ③⑫ 9.45～ 偏光走査型動静ひずみ解析装置 教育大旭川 ○山形 積治
- ③⑬ 10.00～ 合成桁の両振れ曲げ疲労試験に関する基礎的研究 室工大 中村作太郎・○志村政雄
- ③⑭ 10.15～ 施工ブロック毎の時間差を考慮したコンクリート構造変断面連続げたのクリープによる不静定力解析 函館開建 西本藤彦・函館工専 ○外崎 詔
- 10.30～ 討 議
- ③⑮ 11.00～ 円形 inclusion 移動による圧力分布について 室工大 能町純雄・○松岡健一
- ③⑯ 11.15～ 拘束ブロックによる杭の曲げ効果 室工大 能町純雄・松岡健一・○吉路太一
- ③⑰ 11.30～ 矢板の側方不安定構造解析について 室工大 能町純雄・松岡健一・吉小牧工専 ○沢田知之
- ③⑱ 11.45～ 骨組構造物の最適設計 (その 3) —曲げと軸力を受ける部材を含む構造物の最適設計— 北大 渡辺 昇・○杉本博之
- 12.00～ 討 議
- ④⑰ 13.30～ 曲げねじれ剛性を考慮した剛性マトリックス法による曲線格子桁の解析 北大 渡辺 昇・藤原知徳・○藤井裕司
- ④⑱ 13.45～ 剛性マトリックス法によるらせん梁の解析 北大 芳村 仁・清水建設 ○阿部 啓
- ④⑲ 14.00～ 折板理論による曲線桁構造の解析について 北大 芳村 仁・○蕨沢憲吉
- ④⑳ 14.15～ 横荷重を受けるマルチセルケーソンの応力解析 室工大 能町純雄・尾崎 詔・○佐藤 博
- 14.30～ 討 議
- ④㉑ 15.00～ 上下板床と縦横リブによるサンドイッチプレートの解析—2 辺自由の場合— 室工大 能町純雄・北見工大 ○大島俊之
- ④㉒ 15.15～ トラストプレートの応力解析 室工大 能町純雄・○坂本伸樹・松岡健一・北見工大 大島 俊之
- ④㉓ 15.30～ フランジを有する扇形腹板の座屈について 北大 渡辺 昇・川上 洵・○堺 孝司
- ④㉔ 15.45～ ラーメン隅角部の腹板座屈値について 北大 渡辺 昇・○川上 洵
- 11.00～ 討 議
- 閉 会 16.20

(2) 工程管理講習会

▶ 1 月 30 日 (火) ~ 1 月 31 日 (水) ◀

1. 日 時: 1973 年 1 月 30 日 (火) ~ 1 月 31 日 (水) 2 日間 (9.00~16.00)
2. 場 所: 北海道建設会館 9 階大ホール (札幌市中央区北 4, 西 3 TEL 261-6181)
3. 参 加 料: 会員 1600 円 一般 2200 円 (テキスト代 600 円を含む)
4. テキスト代: 参加料に含まれる。ただしテキストのみの場合は 1 冊 600 円
5. 講習時間割 (実習指導に重点をおく)

第 1 日 (1 月 30 日)

第 2 日 (1 月 31 日)

<p>9.00~10.00 PERT の基礎</p> <p>10.00~12.00 ネットワーク技法の実際</p> <p>13.00~15.00 ネットワーク工程図の作成方法</p> <p>15.00~15.30 質 疑</p> <p>15.30~16.00 演習問題概説</p> <p>15.30~16.00 まとめ</p>	<p>9.00~9.30 工程図作成の考え方</p> <p>9.30~12.00 ネットワーク作成演習 (1)</p> <p>13.00~15.30 同 (2)</p>
---	--

6. 申 込 み: 氏名・所属・所在・会員区別を明記し, 参加料前納のうえ当支部事務局へお申込み下さい。
 7. 申 込 締 切: 1973 年 1 月 22 日 (月) 申込み先着順締切
 8. 定 員: 200 名, 例年満員好評につき早目にお申込み下さい。
 9. 講 師: 清水建設 (株) 建設研究所主任研究員 荒木陸彦
同 土木工務部工務第 2 課 比奈地信雄
- 主 催: 土木学会北海道支部・共 催: 土質工学会北海道支部

東北支部行事案内 (郵便番号 980 仙台市二日町 18—25・丸七ビル 3 階)
電 0222—22—8509

(1) 技術研究発表会

▶ 2 月 23 日 (金) ▶

1. 日 時: 1973 年 2 月 23 日 (金) 9.00~17.00
2. 場 所: 宮城県民会館 3 階および 6 階 (仙台市国分町 3—3—7)
3. 参 加 費: 無料 (ただし講演概要集は希望者に実費頒布)
4. プログラム:

第 1 会場 (6 階第 3 会議室)

- | | | |
|---------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| ① 9.00~9.15 | 膨脹セメントを用いたコンクリートと P C 鋼線との付着について | 東北大学 張 智富・佐藤正一
仙台市役所 ○相原孝夫 |
| ② 9.15~9.30 | 異形鉄筋の定着機構について | 東北大学 大塚浩司・○佐藤正一・佐藤文俊 |
| ③ 9.30~9.45 | 人工軽量骨材粒の吸水特性に関する二、三の実験 | 岩手大学 ○藤原忠司・高木正巳 |
| ④ 9.45~10.00 | 軽比重骨材を使用したダムコンクリートの配合設計について | 東北地建 ○石橋正留・山影 茂 |
| ⑤ 10.00~10.15 | 鉛直な人工ひびわれを持つ鉄筋コンクリート梁の破壊実験 | 日本大学 原 忠勝・○大塚孝義
和田公成・後藤 滋 |
| ⑥ 10.15~10.30 | 鉄筋コンクリート梁の斜めひびわれ転移に関する考察 | 日本大学 ○原 忠勝・大塚孝義 |
| ⑦ 10.30~10.45 | 若村令におけるコンクリートの熱拡散率の変化について | 秋田大学 ○庄谷征美・徳田 弘 |
| 休 憩 (10 分) | | |
| ⑧ 10.55~11.10 | 八戸港におけるコンクリートの寒中養生について (函塊製作) | 第二港建 曾我部隆久・○二瓶 昭 |
| ⑨ 11.10~11.25 | コンクリート舗装版の含水比の変化 | 東北大学 福田 正・○山崎克範 |
| ⑩ 11.25~11.40 | コンクリート舗装の路盤効果についての現場実験 | 東北大学 福田 正・○遠藤成夫・山崎和夫 |
| ⑪ 11.40~11.55 | アスファルト混合物の耐久性状に関する一考察 | 東北工業大学 高橋 彦人 |
| ⑫ 11.55~12.10 | 空港平行誘導路建設工事 | 第二港建 ○千葉善夫・菊田文夫 |
| ⑬ 12.10~12.25 | 路盤上スラブ軌道の設計施工について | 国鉄盛岡工事局 稲葉紀昭・熊谷治郎・○齋藤義和 |
| 昼 休 憩 (35 分) | | |
| ⑭ 13.00~13.15 | 北上操車場建設計画 | 国鉄盛岡工事局 小田嶋正一・○高木憲治 |
| ⑮ 13.15~13.30 | 通勤、通学交通からみた吸引性向と接近性向 | 秋田大学 ○清水浩志郎・藤村 昇 |
| ⑯ 13.30~13.45 | 都市の類型化とその構造に関する研究 | 秋田大学 ○田村俊二・清水浩志郎 |
| ⑰ 13.45~14.00 | 我が国諸都市の人口集積とその周辺地域の構造について | 秋田大学 清水浩志郎・○川崎泰夫 |
| ⑱ 14.00~14.15 | 国鉄秋田駅周辺における交通計画について | 秋田大学 ○清水浩志郎・鈴木茂春 |
| ⑲ 14.15~14.30 | 通勤、通学の発生・吸引交通量に影響を及ぼす要因分析 | 秋田大学 清水浩志郎・○大高三雄 |
| 休 憩 (10 分) | | |
| ⑳ 14.40~14.55 | 東北地方の道路交通現況解析 | 東北地建 森本裕士・○木下瑞夫 |
| ㉑ 14.55~15.10 | パーソントリップ調査手法による仙台都市圏の交通計画について | 東北地建 松丸陽一・○宮川朝一
加藤義弘・宮城県土木部 高橋亜夫 |
| ㉒ 15.10~15.25 | 仙台都市圏パーソントリップ調査 | 宮城県土木部 ○樋渡勲夫・高橋亜夫 |
| ㉓ 15.25~15.40 | 都市における城址に関する研究 | 岩手大学 岩佐正章 |
| ㉔ 15.40~15.55 | 城郭の環境設計に関する研究 | 岩手大学 ○安藤 昭・雪田 実・小林 勇 |
| ㉕ 15.55~16.10 | 都市の防雪システムについて | 東北地建 ○松丸陽一・高久秀次 |

第 2 会場 (6 階第 4 会議室)

- | | | |
|---------------|--------------------------------------|---|
| ㉖ 9.00~9.15 | 飽和砂の変形に関する 2, 3 の考察 | 東北大学 河合 秀次 |
| ㉗ 9.15~9.30 | 排水時および非排水時における砂の変形係数 | 東北大学 諸戸 靖史 |
| ㉘ 9.30~9.45 | 飽和粘性土の動力学的性質について | 新潟大学 小川正二・○柴山孝幸・山口晴幸 |
| ㉙ 9.45~10.00 | 直接せん断試験による飽和砂の液状化について | 新潟大学 小川正二・○志田光雄・鈴木俊一 |
| ㉚ 10.00~10.15 | 石灰で処理した八戸ロームの工学的性質 | 八戸工専 丹野忠行・○山田三夫・最上博通 |
| ㉛ 10.15~10.30 | 載荷試験と粘弾性 | 秋田大学 ○赤木知之・色部 誠 |
| 休 憩 (10 分) | | |
| ㉜ 10.40~10.55 | 矩形パルス応力を受ける飽和粘土のせん断強度について | 東北大学 ○畠山 昭・佐々木康夫 |
| ㉝ 10.55~11.10 | 擁壁背面に作用する土圧の模型実験について | 東北地建 赤津武男・○片桐真次 |
| ㉞ 11.10~11.25 | オールウェザー化のエアレント仮設実験について | 東北地建 赤津 武男 |
| ㉟ 11.25~11.40 | 第 2 有壁トンネル機械化掘削施工について | 国鉄盛岡工事局 渡辺 正法 |
| ㊱ 11.40~11.55 | 久慈線大沢橋梁の設計について | 国鉄盛岡支社 滝沢 正道 |
| ㊲ 11.55~12.10 | 東北新幹線第 2, 第 3 阿武隈川橋りょうの計画と施工について | 国鉄福島工事局 鶴巻 栄光 |
| 昼 休 憩 (50 分) | | |
| ㊳ 13.00~13.15 | 堤防の崩壊に関する 2, 3 の考察 | 秋田工専 伊藤 睦 |
| ㊴ 13.15~13.30 | 材料の微視的変動の幾何学的表現方法について | 東北大学 岸野 佑次 |
| ㊵ 13.30~13.45 | Conjugate projection の理論による高精度差分式の誘導 | 東北大学 佐武正雄・○新関 茂 |
| ㊶ 13.45~14.00 | テンソル衝撃波の伝播について | 東北大学 多谷 虎男 |
| ㊷ 14.00~14.15 | 有限要素法による弾性波の解析例 | 東北工業大学 秋田 宏 |
| 休 憩 (10 分) | | |
| ㊸ 14.25~14.40 | 多柱基礎の立体解析 | 岩手大学 宮本 裕 |
| ㊹ 14.40~14.55 | ダム監査廊周辺の応力解析と応用について | 東北地建 大隈 義隆 |
| ㊺ 14.55~15.10 | 既設橋の応力測定について | 山形県土木部 伊藤 文雄
東北工業大学 佐藤興夫・高橋龍夫・○松山正将・山田俊次 |

- ④⑩ 15.10~15.25 新緑野川橋（仮称）におけるケーソンの地震測定とその解析 東北大学 佐武正雄・森 芳信
 〇田野久貴・東北地建 望月倫也
- 休 憩（10分）
- ④⑪ 15.35~15.50 北上川の水質保全について 東北地建 椎野佐昌・〇齊田重夫
 ④⑫ 15.50~16.05 東北地方主要河川の水質について 東北地建 鎌田哲男・〇名久井賢二
 ④⑬ 16.05~16.20 マイクロブロック法における最適薬注量 東北大学 佐藤敦久・〇狩野仁一郎
 ④⑭ 16.20~16.35 名取川水系水質調査 東北大学 佐藤敦久・〇千葉信男・熊谷幸博
- 第3会場（3階中ホール）**
- ⑤① 9.00~ 9.15 阿武隈川水系の水環境調査 東北大学 松本順一郎・〇大内三久・佐々木勝裕
 東北工業大学 藤井立美・金田良夫
- ⑤② 9.15~ 9.30 嫌気性消火におよぼす硝酸塩の影響 東北大学 野池 達也
- ⑤③ 9.30~ 9.45 活性汚泥の基質除去能に関する一考察 東北大学 〇江成敬次郎・島田正二・泉 哲司
- ⑤④ 9.45~10.00 純酸素による汚泥増殖と除去活性について 東北大学 〇羽田守夫・末永栄六
- ⑤⑤ 10.00~10.15 自由水面からの酸素移動について 東北大学 〇高橋克夫・金子 明
- ⑤⑥ 10.15~10.30 塩釜湾に流入する都市下水廃液の拡散について 東北大学 松本順一郎・星 晃彦・〇我妻貞男
- 休 憩（10分）
- ⑤⑦ 10.40~10.55 女川湾の汚染拡散調査 東北大学 松本順一郎・高橋克夫・〇大村達夫
- ⑤⑧ 10.55~11.10 河川の自浄作用について 東北大学 松本順一郎・東北工業大学 〇大沼正郎
 日本大学 中村 玄正
- ⑤⑨ 11.10~11.25 回転接触法に関する研究 日本大学 深谷宗吉・中村玄正・〇長沢毅毅
- ⑤⑩ 11.25~11.40 酸素移動に及ぼす物性その他の因子について 日本大学 深谷宗吉・中村玄正・〇柴田建治
- ⑤⑪ 11.40~11.55 水産加工場廃水処理について 八戸工専 阿部正平・〇磯谷岩太郎
- ⑤⑫ 11.55~12.10 休廃止鉱山周辺における重金属イオンの挙動について 八戸工専 阿部正平・〇工藤 宏・横島和則
- 昼 休 み（50分）
- ⑤⑬ 13.00~13.15 海水による消管廃水が活性汚泥法におよぼす影響について 八戸工専 阿部正平・〇鈴木留明・五戸信行
- ⑤⑭ 13.15~13.30 新井田川の河川浄化について 八戸工専 阿部正平・〇森山 尚・菊地弘志
- ⑤⑮ 13.30~13.45 馬淵川の総合河川調査結果について 八戸工専 阿部正平・〇渡辺 斉・佐藤治正
- ⑤⑯ 13.45~14.00 新井田川の総合河川調査結果について 八戸工専 阿部正平・〇菊地弘志・森山 尚
- ⑤⑰ 14.00~14.15 47.7豪雨による米代川水系の出水状況 秋田大学 〇石井千万太郎
- ⑤⑱ 14.15~14.30 集中豪雨（秋田県）における洪水流出について 秋田高専 丹野哲郎・長谷部正彦・〇望月敏美
- 休 憩（10分）
- ⑤⑲ 14.40~14.55 有限要素法による物体後流の解析 秋田大学 薄木征三・〇工藤研二
- ⑤⑳ 14.55~15.10 雄物川流量における自己相関と低減係数について 秋田高専 長谷部正彦・秋田大学 〇中村英一
- ㉑ 15.10~15.25 秋田海岸における波浪特性 秋田高専 榎 国夫
- ㉒ 15.25~15.40 塩釜港の波向観測に関する一考察 第二港建 〇新井洋一・市川 武
- ㉓ 15.40~15.55 海岸堤防前面の海浜変形に関する実験 東北大学 岩崎敏夫・沼田 淳・〇和田 信
- ㉔ 15.55~16.10 宮城県内の水資源に関する研究 東北大学 坂本龍雄・〇板橋勝一郎・西田吉男・中村隆幸
- ㉕ 16.10~16.25 鳴瀬川・江合川の河床形態および粗度について 東北大学 坂本龍雄・〇三王英寿・高橋 繁・高橋信行
- ㉖ 16.25~16.40 高瀬川の河床調査結果について 東北大学 坂本龍雄・〇鈴木英世

(2) 技術講座と映画の会

▶ 2月6日（火）◀

1. 日 時：1973年2月6日（火）10.30~17.00
2. 場 所：山形産業会館（山形市旅籠町，市役所向）
3. 講座および講師：
 - 10.20~10.30 開会のあいさつ 山形県土木部長 石橋金一郎
 - 10.30~12.00 土質工学の基礎 東北大学工学部長 河上 房義
 - 13.00~14.30 法面保護対策工事 開発工事土木部長 岩瀬 丞
4. 映 画：
 - 14.30~16.10 尾道大橋，東名高速道路
5. 聴 講：無料（ただし，希望者には当日会場においてテキストを実費頒布する）

関東支部行事案内（郵便番号 160 新宿区四谷 1 丁目 土木学会内）
 電話 03-351-4133

「軟弱地盤の設計と施工の問題点」講習会

▶ 2月23日（金）◀

今回の講習会は，最近の軟弱地盤に対する諸問題を取り上げ，斯界の権威者5氏により具体例等を織り込んだ，有益な解説をお願いすることになりました。多数ご参加下さるよう，ご案内申し上げます。

1. 日 時：1973年2月23日（金）9.40~16.30
2. 場 所：土木学会土木図書館講堂

3. 題目・講師：

9.40～9.50	開会の辞	土木学会関東支部長	水越 達雄
9.50～10.50	軟弱地盤と構造物	国鉄構造物設計事務所	池田 俊雄
11.00～12.00	港湾構造物の設計と問題点	運輸省港湾技術研究所	奥村 樹郎
13.00～14.00	基礎構造および仮設構造物の設計上の問題点	首都高速道路公団	矢作 柁
14.10～15.10	軟弱地盤上の道路土工	日本道路公団各古屋支社	持永竜一郎
15.20～16.20	施工上からみた軟弱地盤の問題点	(株)間組技術研究所	藤田 圭一
16.20～16.30	閉会の辞	土木学会関東支部幹事長	藤井 敏夫

4. 参加費：1300円（テキスト代を含む）

5. 申込方法：参加希望者は、氏名、所属部課名、連絡先等を明記のうえ、参加費を同封し現金書留にて、関東支部宛お申し込み下さい。

なお、定員は200名で締切りますので、お早めをお願いいたします。

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-232 近畿日本鉄道(株)鉄道総局) 名古屋営業局施設部庶務課内 電 052-582-3311 内線 251)

昭和 47 年度研究発表会

▶ 2 月 2 日 (金) ◀

1. 日 時：1973 年 2 月 2 日 (金) 9.00～16.30

2. 会 場：信州大学工学部 講義棟 2 階 201～204 号室
長野市若里 500

長野駅前発、鐘紡経由松岡行バス乗車、信大工学部前下車（バス所要時間 15 分）

3. 聴 講：無料

4. 申込方法：聴講希望者は 1 月 30 日 (火) までに官製ハガキに勤務先、連絡先、氏名を明記のうえ土木学会中部支部または信州大学工学部土木教室へお申込みください。

(注) 講演概要集の部数に制限がありますからお早めにお申込みください。

5. 講演プログラム：

第 1 会 場 (201 号室)

■ 測量、応用力学、橋梁、構造など

9.00～10.30

- I-1 規準ボールの差異による前方交會法の誤差について 名城大学 中井 清・節田祐次・前田都喜春
- I-2 半楕円切欠を有する 2 次元弾性体の応力解析 (準等方性の場合) 名古屋工業大学 長谷部宜男
- I-3 クラック周辺の塑性応力解析 岐阜大学 前島 正彦
- I-4 斜交パイプ構造継手近傍における応力の解析 豊田工業高専 桜井 孝昌
- I-5 斜めスラブアーチの応力解析 (第二報) 岐阜大学 井上 肇・前島正彦・近藤 昇
佐藤工業 ○松本展宣
- I-6 箱桁構造解析における Finite Element Method と Finite Strip Method について 名古屋大学 ○粟本公男・梶田達夫・成岡昌夫
- I-7 H 形鋼よりの弾塑性横倒れ座屈曲線 (近似曲線) 金沢大学 吉田 博

(休 憩 10 分)

10.40～12.10

- I-8 はりの曲げ (降伏点をこえる) によって生ずる支点の水平反力について 岐阜大学 井上 肇・○佐藤幹雄
- I-9 補剛ワーレントラスの非線形挙動 信州大学 吉沢 孝和
- I-10 梁の動的一般式の誘導に関する一考察 早稲田大学 平嶋政治・○依田照彦
- I-11 構造物の動的制御に関する基礎的研究 信州大学 吉沢孝和・○太田精一
- I-12 外海に設置した円筒状構造物の設計に関する一考察 中部電力 ○井上昭栄・渡辺一郎・阿知波文夫
- I-13 アナログ・コンピュータによる地震動のシミュレーションについて 名古屋大学 ○藤田俊英・大内博男・小塩健二
- I-14 地下逃散減衰試験について 中部電力 藤垣 襄

(昼 食 50 分)

13.00～14.30

- I-15 各種道路橋の振動特性について 金沢大学 小堀為雄・○梶川康男
- I-16 鋼床版桁橋の設計での一考察 滝上工業 熊沢周明・○高木録郎
- I-17 鋼床版の曲げに関する模型実験 岐阜工業高専 ○鎌田相互・渡辺卓郎
- I-18 連続曲線箱桁の解析および実験 信州大学 吉田俊弥・○和田三夫
- I-19 竜ヶ岳橋 (吊橋) の上部現場施工における留意点と問題点 滝上工業 熊沢周明・○安藤浩吉
滝上建設 遠田 清
- I-20 名古屋空港大山川橋梁載荷試験について 第五港湾建設局 片山 琢郎
- I-21 信頼性を考えた載荷試験について 金沢大学 小堀 為雄

(休 憩 10 分)

14.40~15.30

- I-22 地中送配電線路用構造物のプレキャスト化について 中部電力 長谷川幸雄
- I-23 トンネルの断面形状と覆工応力の関係 信州大学 ○小林真和・長 尚
国鉄 岩井 徳雄
- I-24 受動荷重の発生を考慮したトンネル覆工応力の一計算法 信州大学 長 尚
- I-25 繰返し荷重をうける構造物の変形に関する一考察 信州大学 ○草間孝志・中村卓史

第 2 会 場 (202 号室)

■水理, 水文, 河海, コンクリート, 材料など

9.00~10.30

- II-1 プロベラ流速計によるレイノルズ応力の測定 信州大学 余越正一郎・○中沢一博
- II-2 開水路段落ち部における横混合 信州大学 佐々木八郎・余越正一郎
日本国土開発 ○佐々木 暹
- II-3 浮遊物を含むシアー乱流のスペクトル構造 信州大学 佐々木八郎・○余越正一郎・松井 清
- II-4 雨水流による土砂流出の研究 ―ガリ侵食について― 岐阜大学 河村三郎・○横山 武
- II-5 幅厚堰の越流係数について 石川工業高専 布本 博
- II-6 開水路における円柱のカルマン渦の特性 信州大学 余越正一郎・○有賀良夫
- II-7 双対類推による管網の流量測定 豊田工業高専 ○大野俊夫・渡辺与作

(休 憩 10 分)

10.40~12.25

- II-8 融雪流出への情報理論的アプローチについて 金沢大学 高瀬 信忠
大阪府土木部 野村 隼男
石川工業高専 ○畑 時男
- II-9 地下水位変動の数値実験 岐阜大学 宇野尚雄・○鈴木輝男
- II-10 掘川の水質浄化について 清水建設 ○日比野憲夫
名古屋工業大学 細井 正延
長岡工業高専 吉田 茂
- II-11 淡水塩水二層間の抵抗係数について 名城大学 青木保雄・○伊藤政博
- II-12 海浜変形のスペクトル特性について 名古屋工業大学 石田 昭・○石田和生
- II-13 二次波峯現象の振幅スペクトルを解析する一方法について 名古屋工業大学 石田 昭
- II-14 浅海波の変形に関する写真観測について 名古屋工業大学 石田 昭
- II-15 ブロックによる根固め消波工の実験研究 岐阜工業高専 菅野 一

(昼 食 35 分)

13.00~14.30

- II-16 プラスチック破砕物を骨材に用いたモルタルおよびコンクリート 長野工業高専 山崎 英樹
- II-17 各種骨材を用いたコンクリートの耐久性に関する研究 名古屋工業大学 吉田弥智・赤井 登・○須山明広
- II-18 軽量骨材を使用した膨張コンクリートの基礎的特性 岐阜大学 大浜文彦・○縄田初夫
- II-19 プレパックドコンクリートの施工事例について 清水建設 望月 輝雄
- II-20 エア-モルタルの側面拘束による収縮応力について 岐阜大学 大浜 文彦・○森本博嗣
- II-21 洗浄, 水簸廃滓(含粘土微粒珪砂)を主原料としたオートクレーブ硬化体 ―産業廃棄物のコンクリート製品化のための基礎研究― 愛知工業大学 久保直志・○森野奎二
- II-22 軽量コンクリートを打継いだPC合成はりの拘束応力 岐阜大学 小林 和夫

(休 憩 10 分)

14.40~15.45

- II-23 樹脂による接合 PC T 型はりの力学的性状に関する基礎研究 名古屋工業大学 吉田弥智・○田 政信
- II-24 集中荷重を受ける鉄筋コンクリート版の終局耐力に関する研究 名古屋工業大学 吉田弥智・○加藤祐一郎
- II-25 コンクリートの圧縮強度試験に用いる標準供試体について 長野工業高専 山崎英樹・○上条直秀
- II-26 ワイヤクリップを用いた鉄筋の重ね継手について 長野工業高専 山崎英樹・○服部秀人
- II-27 コンクリートの付着応力の分布の計算と実験 信州大学 ○伝田正直・長 尚・倉谷勝敏・高橋秀樹

第 3 会 場 (203 号室)

■交通, 道路, 都市など

9.00~10.30

- III-1 面積的制限を考慮した交通機関分担率 信州大学 奥谷 巖
京都大学 齋 恒三
信州大学 ○住田次郎
- III-2 パーソン・トリップの機関別分担率について 金沢大学 松浦義満・○米田秀男
- III-3 貨物流動の機関別分担率について 金沢大学 松浦義満・米田秀男・○北野文男
- III-4 パーソン・トリップの交通機関別分担率について 名古屋大学 河上 省吾
- III-5 住区内における駅勢圏の形成と大量輸送機関の分担率について 名古屋大学 山際 喜義
- III-6 駐車場が乗用車利用率に与える影響について 金沢大学 松浦義満・○谷口正明
- III-7 パークアンドライド方式に関する一考察 名古屋工業大学 渡辺新三・○頼 俊一

(休 憩 10 分)

10.40~12.10

- Ⅲ-8 土地利用別自動車交通量発生原単位について 名古屋大学 河上 省吾
名古屋大学 〇森 利夫
- Ⅲ-9 通勤交通発生量密度について 金沢大学 松浦義満・〇沢田吉和
- Ⅲ-10 自動車交通の需要曲線 岐阜大学 加藤 晃・〇鈴木 清
- Ⅲ-11 新線開通に伴う母都市への流出人口の変化予測の方法について 日本住宅公団 〇遠山正美
名古屋大学 杉野 尚夫
名古屋大学 竹内 伝史
- Ⅲ-12 住区内歩行者交通の発生・集中に関する分析 名古屋大学 竹内 伝史
- Ⅲ-13 交差点を中心とした交通配分 岐阜大学 加藤 晃・〇瀬戸芳正
- Ⅲ-14 運転者の経路選択挙動について 名古屋工業大学 松井 寛

(昼 食 50 分)

13.00~14.30

- Ⅲ-15 住工混在地域における環境の分析と用途地域指定の考察 岐阜大学 〇加藤 晃
横浜市 大槻 正和
- Ⅲ-16 道路交通騒音に関する住民の被害意識について 名古屋大学 〇古市正敏・青島縮次郎
- Ⅲ-17 シミュレーションによる道路交通騒音の予測 名古屋大学 河上省吾・青島縮次郎
豊田工業高専 〇荻野 弘
- Ⅲ-18 道路網整備の経済効果について 金沢大学 松浦義満・渡辺義男・〇加藤文啓
- Ⅲ-19 道路網パターンにおけるアクセシビリティに関する一考察 名古屋工業大学 九尾 哲也
- Ⅲ-20 空間オキュパンシーと交通密度に関する基礎的考察 信州大学 奥谷 巖
- Ⅲ-21 高速道路と一般街路との交差接続部における走行挙動について 豊田工業高専 〇栗本 譲・荻野弘・中島清美
一サイドランプの場合一

(休 憩 10 分)

14.40~15.20

- Ⅲ-22 街路網信号周期とスプリットの一決定手法 信州大学 奥谷 巖・〇箱田寛久
- Ⅲ-23 有料道路の料金最適化に関する一考察 名古屋工業大学 松井 寛・〇伊豆原浩二
- Ⅲ-24 円形都市モデルに関する2,3の考察 信州大学 奥谷 巖・〇上杉一義

第 4 会 場 (204 号室)

■施工, 基礎, 土質など

9.00~10.30

- Ⅳ-1 ニューマチックケーソン工法省力化の心組 白石基礎 片岡 功
- Ⅳ-2 フロンテジャッキ工法 名工建設 磯部三次郎
- Ⅳ-3 バイパスのプレストレストレストレスアンカー工法 鹿島建設 廣原正孝・安部元士・〇水野一男
- Ⅳ-4 大型送電鉄塔基礎の深礎広底工法について 中部電力 長谷川英明
- Ⅳ-5 建設現場における安全管理の実態と対策 名城大学 六鹿 一・〇竹内修造
- Ⅳ-6 中央道網掛および本谷工事設計施工の特色 日本道路公団 小林一夫・〇西川 享
- Ⅳ-7 近鉄志摩線鳥羽岩崎橋付近海面埋立工事の経過および問題点 近畿日本鉄道 水野 忠・青笹登建・〇日高邦彦
一パイプロンポンパー工法による地盤改良工事一

(休 憩 10 分)

10.40~12.10

- Ⅳ-8 軟弱地盤における大面積大量土工の施工管理システム 大林組 東 正泰
- Ⅳ-9 中央道恵那山トンネルの工事概況 日本道路公団 小林一夫・〇玉川 清
- Ⅳ-10 斜面地盤における深礎基礎周辺の応力状態について 名城大学 〇清水泰弘
名古屋大学 川本 詠万
八千代エンジニアリング 浜 幸雄
- Ⅳ-11 円錐角をもつクイの塑性域 名城大学 柴田 道生
- Ⅳ-12 クイ先端角度の差異における地盤変位(その3) 名城大学 柴田道生・阿河武夫
- Ⅳ-13 地盤の挙動調査による建築基礎の合理化 日建設計 松井克俊・大岡 武
名古屋大学 植下 協・〇永瀬信一
- Ⅳ-14 舗装設計の合理化の方向 名古屋大学 植下 協・〇坪井英夫

(昼 食 50 分)

13.00~14.30

- Ⅳ-15 二層材料の圧縮強度特性 金沢大学 西田義親・八木則夫・田村徳郎
- Ⅳ-16 アスファルト合材の締固めに関する一考察 名城大学 藤田 晃弘
- Ⅳ-17 模型道床における砕石粒度分布の実験的研究 岐阜工業高専 〇渡部卓郎・鎌田相互
- Ⅳ-18 47.7 豪雨による西三河地方の山地崩壊の実態について 名古屋大学 植下 協・〇桑山 忠
- Ⅳ-19 粒状体の変形の微視的機構について 信州大学 小西 純一
- Ⅳ-20 アルミ棒積層体の変形特性 岐阜大学 宇野尚雄・〇西 好一
- Ⅳ-21 豊浦標準砂の粒体の特性について 名城大学 〇加藤正育・飯坂武男

(休 憩 10 分)

14.40~16.10

- Ⅳ-22 最大主応力 (σ_1) を一定とした砂のせん断特性について 名古屋大学 〇竹野政昭・松沢 宏・市原松平
- Ⅳ-23 土中の透水性に関する考察 岐阜大学 宇野 尚雄

- IV-24 ロックフィルダムの盛立シミュレーションについて
- IV-25 イオン交換ベントナイト2,3の力学的特性
- IV-26 攪乱粘土の強度回復に関する一考察
- IV-27 不飽和土の体積測定について
- IV-28 不飽和土の応力経路について

- 中電電力 ○渡辺 元・榎本久徳
- 金沢大学 西田義親・八木則夫・○松村夏樹
- 金沢大学 西田義親・○八木則夫・松村夏樹
- 長野工業高专 峰村 信雄
- 信州大学 川上 浩・○阿部広史

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市東区船場中央2丁目2番地 船場センタービル4号館) 409号 電 06-271-6686 番 振替口座大阪 82599 番

(1) 構造物・施設の調査に関する研究会

▶ 2月20日(火) ◀

(第4回) 河川工作物の調査に関する研究会

標記研究会の第4回目として、河川工作物をとりあげました。河川やダムなどの計画、設計、管理に必要な治水利水構造物の機能調査の一般的な方法の説明と貴重な調査事例の提供に基づいて、各位の活発な討議の中から新しい、題とその対策が生まれることを期待しております。

1. 日 時：1973年2月20日(火) 13.00~17.00

2. 会 場：大阪科学技術センター4階401号室 電話大阪(06)443-5321番

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m 靱公園北東角)

3. 題目と講師：

- | | | | |
|-------------|--------------------------|------------------------|------|
| 13.00~13.05 | 開会挨拶 | 土木学会関西支部長 | 柳瀬珠郎 |
| 13.05~13.45 | ① 流路変動と河道計画 | 京都大学教授防災研究所 工博 | 村本嘉雄 |
| 13.45~14.25 | ② 堤防の漏水とその対策 | 建設省土木研究所機械施工部土質研究室長 工博 | 山村和也 |
| 14.25~15.05 | ③ 淀川大堰の工事に伴う調査とその検討 | 建設省近畿地方建設局淀川工事事務所長 | 長尾 精 |
| 15.05~15.45 | ④ ロックフィルダムの挙動——喜撰山ダムの例—— | 関西電力(株)建設部ダム保安課長 | 丹羽武彦 |
| 15.50~16.55 | 討 議 | | |

16.55~17.00

閉会挨拶

司 会：京都大学教授防災研究所 工博 芦田和男
土木学会関西支部幹事長 後藤尚男

4. 定 員：160名

5. 聴 講：無料 来聴歓迎

(お願い) 各職場で参加予定人員をおまとめのうえ来る2月6日(火)までにハガキまたは電話にて土木学会関西支部までご一報ください。

(2) 講習会「施工計画・管理の基礎」

▶ 2月13日(火) ◀

主 催：(社)土木学会関西支部

協 賛：大阪建設業協会・(社)建設コンサルタンツ協会大阪支部・建設技術資料センター

関西支部では、昨年度より、学術研究より遠ざかって現場業務に携わっておられる土木技術者を対象に斬新な研究や実務に役立つ解析手法等をテーマにして、基礎的かつ入門的な解説を加えて勉強していただく一連の講習会を行なっております。

今回は、土木施工管理技術の基本に関連した形で、品質管理・土木計画の省力化と管理のシステム化について、実務の研究を含めて、次のようなテーマを選びました。関係各位の積極的なご参加を期待しております。

1. 日 時：1973年2月13日(火) 9.20~16.40

2. 会 場：大阪科学技術センター 8階大ホール 電話大阪(06)443-5321番

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄四ツ橋線本町下車、北へ150m、靱公園北東角)

3. 題目と講師：

- | | | | |
|-------------|---------------------------------|-----------------|------|
| 9.20~9.30 | 開会挨拶 | 土木学会関西支部長 | 柳瀬珠郎 |
| 9.30~10.40 | ① 施工管理技術の基礎 | 近畿地方建設局企画部技術管理課 | 成田久夫 |
| 10.40~12.00 | ② 品質管理の考え方と手法 | 近畿地方建設局近畿技術事務所 | 島崎 静 |
| 13.00~14.40 | ③ 宅地造成工事計画の省略化 ——電子計算機による自動設計—— | | |

14.50~16.30

④ 機械系の選定と工程計画のシステム化 ——宅地造成工事の運土計画——

三井建設(株)土木技術部技術課 梅園輝彦
京都大学工学部 春名 攻
土木学会関西支部幹事長 後藤尚男

16.30~16.40

閉会挨拶

4. 定 員：300名(先着順)

5. 参 加 費：主催・協賛団体会員 1600円(B5版約100ページオフセット印刷資料代を含む)

ただし講習会当日は 2400 円となりますので期限内に前納してください。

非会員 2400 円 (資料代を含む)

6. 申込期限: 1973 年 1 月 31 日 (水)

7. 申込方法: 参加希望者は、勤務先・連絡先・氏名・会員種別 (所属団体名) を明記 (様式随意) し、参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込みください。

なお参加者には参加証をお送りしますから、当日必ずご持参ください。

(注) 都合により講師の順序等に変更があることもありますのでご了承ください。

(3) 構造工学講習会——長大橋梁の諸問題—— ▶ 3 月 15 日 (木)~16 日 (金) ◀

1. 日 時: 1973 年 3 月 15 日 (木), 16 日 (金) 9.10~17.30

2. 会 場: 大阪科学技術センター 8 階大ホール 電話大阪 (06) 443-5321 番

大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄四ツ橋線本町下車北へ 150 m 靱公園北東角)

3. 題目と講師:

第 1 日 (3 月 15 日)

9.10~9.20	開会挨拶	土木学会関西支部長	柳瀬珠郎
9.20~10.40	① 長大橋梁の現状と問題点	京都大学教授工学部 工博	小西一郎
10.50~12.10	② 上部構造の強度	大阪大学教授工学部 工博	小松定夫
13.00~14.20	③ 材料・継手の問題	神戸大学教授工学部 工博	西村 昭
14.30~15.50	④ 長大併用橋の設計上の問題	本州四国連絡橋公団設計第 1 部次長 工博	田島二郎
16.00~17.20	⑤ 上部構造の耐風設計	京都大学助教授工学部 工博	白石成人

第 2 日 (3 月 16 日)

9.20~10.40	⑥ 上部構造の製作	阪神高速道路公団南港連絡橋建設部長	笹戸松二
10.50~12.10	⑦ 上部構造の架設	日本道路公団高速道路開門建設所開門架橋工事事務所長	大橋昭光
13.00~14.20	⑧ 下部構造の設計	本州四国連絡橋公団設計第 2 部設計第 3 課長 工博	吉田 巖
14.30~15.50	⑨ 下部構造の耐震設計	京都大学教授工学部 工博	後藤尚男
16.00~17.20	⑩ 下部構造の施工	本州四国連絡橋公団神戸調査事務所長	相良正次
17.20~17.30	閉会挨拶	土木学会関西支部幹事長	後藤尚男

4. 定 員: 300 名 (先着順)

5. 参加費: 会員 3800 円 (テキスト代を含む)

ただし講習会当日は 5700 円となりますので期限内に前納してください。

非会員 5700 円 (テキスト代を含む)

6. 申込期限: 1973 年 2 月 28 日 (水)

7. 申込方法: 参加希望者は勤務先・連絡先・氏名・会員種別を明記 (様式随意) し、参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込みください。

参加者には参加証をお送りしますから両日とも必ずご持参ください。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかもしれませんのでご了承ください。

(4) 関西支部年次学術講演会 (昭和 48 年度) ▶ 6 月 1 日 (金) ▶

1. 日 時: 1973 年 6 月 1 日 (金) 9.00~17.00 の予定

2. 会 場: 大阪市立大学工学部 電話大阪 (06) 692-1231 番

大阪市住吉区杉本町 459 国鉄阪和線杉本町駅下車東へ徒歩 5 分

プログラム、講演概要の頒価およびその他の事項については学会誌 4 月号に登載の予定です。

講演ご希望の方は次の講演申込要領をご覧のうえお申し込みください。

年次学術講演会申込要領

① 講演申込方法: 講演希望者は申込カード (4 枚複写綴) に部門および区分、題目、スライドの有無、勤務先、会員種別、学位、氏名 (連名の時は講演者に○印をつける)、卒業学校名および年次、連絡先を明記のうえ 1973 年 2 月 2 日 (金) までに土木学会関西支部へ必着するよう提出してください。

申込カードは関西支部へ請求してください。

② 講演内容: 講演は未発表のもので、1 人 1 題にかぎります。

③ 講演時間: 1 題につき 10 分の予定です。

④ 講演部門: 次の 5 部門にわけますが、都合により講演者の了承を得たうえで部門を変更させていただくことがあります。

(お願い) 申込カードの部門欄には部門番号と区分をご記入ください。(例: 第 2 部門 衛生工学)

部 門	区 分	細 分
第1部門	土 木 構 造	応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
第2部門	水 衛 工 学 生 工 学	水理学・水文学・発電水力・衛生工学・河川工学・港湾工学・海岸工学等
第3部門	土 質 工 学 盤 工 学	土質工学・基礎工学・岩盤力学等
第4部門	交 通 工 学 都 市 工 学 園 土 計 画	道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
第5部門	土 木 材 料 施 工 法	土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

⑤ 原稿提出要領：講演申込者には次の要領で講演概要の原稿を提出していただきます。

1. 講演概要は講演者の原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますから必ず所定の用紙をご使用ください。
2. 用紙は執筆要領（原稿の書き方）とともに講演申込者に関西支部よりお渡しします。
3. 原稿は 1973 年 4 月 10 日（火）（期限厳守）までに関西支部へ必着するようお送りください。
4. 原稿の長さは 1 題につき 2 ページ（図表，写真を含め 1 ページ 1 480 字詰）を原則とします。超過する場合は 2 ページまで，1 ページにつき 2 000 円の整版料を申し受けます。
5. 原稿提出期限までに未入会（○印）の方の原稿は受け付けませんのでご了承ください。

⑥ 講演概要：有料頒布，別刷は講演者（○印）には 30 部無料で差し上げますが，それ以上の取扱いはいたしません。

（5） 第2回学生見学会（中国縦貫道，六甲地質・断層見学会） ▶ 1 月 29 日（月）◀

1. 期 日：1973 年 1 月 29 日（月）
2. 見 学 先：日本道路公団中国縦貫道工事現場および六甲山地質
3. 集 合：（A班）1 月 29 日 9 時 45 分までに阪神電鉄本社前（大阪中央郵便局西入南側 国鉄大阪駅西南）
（B班） 〃 10 時までに神戸大学工学部正門前
4. 行 程：9.00 阪神電鉄本社前発——10.00 神戸大学工学部正門前経由——10.10 神戸大学裏側断層見学
10.30 発——六甲山頂——有馬——11.30 蓬莱峡断層見学（車中）——12.00 宝塚着，昼食
12.45 発——13.00 宝塚インター，米谷トンネル，宝塚トンネル（いずれも片側三車線トンネル）
見学 13.40 発——14.00 六甲サービスイリアおよび地すべり多発地帯対策工事見学 14.30 発——
15.00 神戸インターおよび流通センター見学 15.30 発——17.30 大阪駅着 解散
車中説明者：関西大学助教授工学部 工博 西田一彦
5. 参 加 費：600 円
6. 定 員：50 名
7. 参加者資格：土木学会学生会員（関西地区）
ただし申込期限までに入会手続のすんだ方および大学院学生の正会員も有効
8. 申 込 期 限：1973 年 1 月 12 日（金）
9. 申 込 要 領：参加希望者は学校名，氏名および集合場所（A班またはB班）を明記し，参加費を添えて各学校の学生班長を経由のうえ申込期限までに土木学会関西支部へお申し込みください。
申込期限内に定員を超過したときは，学校別に人員の割当てをいたしますからお含みおきください。
学生班長は申込順位番号を付けて一括申し込んでください。
10. そ の 他：昼食は各自ご持参ください。

（6） 「地質学と土質工学の境界領域の問題点」講習会 ▶ 3 月 19 日（月）～20 日（火）◀

——建設技術者が考慮すべき地質学——

- 主 催：土質工学会関西支部
協 賛：土木学会関西支部ほか 4 学協会
1. 日 時：1973 年 3 月 19 日（月），20 日（火）9.00～16.10

2. 会場：大阪科学技術センター 8階大ホール 電話大阪(06)443-5321 番
 大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m 靱公園北東角)

3. 題目と講師：

第1日(3月19日)

9.10~10.40	① 地盤とその区分(地域計画への地質学的アプローチ)	大阪大学	中世古幸次郎
10.40~12.10	② 近畿地方における活断層	大阪市立大学	藤田和夫
13.10~14.40	③ 土質工学的見地より見た大阪層群の微構造	大阪市立大学	竹中準之介
14.40~16.10	④ 近畿地方の地震	京都大学	吉川宗治

第2日(3月20日)

9.00~10.30	⑤ 土の岩の工学と地質構造特性	京都大学	赤井浩一
10.30~12.00	⑥ 岩石の風化と風化残積土の工学的性質	関西大学	西田一彦
13.00~14.30	⑦ 地盤の災害と防災	神戸大学	田中茂
14.30~16.00	⑧ 瀬戸内海の海底地質と調査(本四連絡架橋調査を例にして)	本州四国連絡橋公団	宮島圭司

4. 定員：300名(先着順)

5. 参加費：主催・協賛団体 会員 4000円(テキスト代含む)

講習会当日および非会員 5000円

6. 申込期限：1973年2月28日(水)

7. 申込方法：参加希望者は勤務先・連絡先・氏名・会員種別(所属学協会)を明記(様式随意)のうえ参加費を添えて下記へお申し込みください。

申込先 土質工学会関西支部

(郵便番号 541) 大阪市東区船場中央 2-2 船場センタービル4号館 409号(4階)

電話番号 大阪(06)271-6485 振替口座大阪 33383 番

(7) 初心者のための有限要素法講習会

▶ 1月25日(木)~26日(金)◀

共催：日本材料学会・同関西支部ほか2学会

▶ 2月6日(火)~7日(水)◀

協賛：土木学会関西支部ほか3学会

▶ (第I部基礎コース)

1. 日時：1973年1月25日(木), 26日(金) 9.30~16.30

2. 会場：京都大学楽友会館

京都市左京区吉田近衛町 市電・市バス近衛下車東入ル

3. 題目と講師：

第1日(1月25日)

9.30~12.30	① 弾性学の基礎と変分原理入門	名大工	川本眺万
13.30~16.30	② 有限要素法の考え方	京大工	小林昭一

第2日(1月26日)

9.50~12.30	③ 弾塑性解析の有限要素法	京大工	井上達雄
13.30~16.30	④ 有限要素法の現状と将来	東大生研	川井忠彦

4. 定員：100名

対象：材料力学または構造力学と弾性学の初歩がある程度理解できる方

▶ (第II部 プログラミングと応用コース)

1. 日時：1973年2月6日(火), 7日(水) 9.30~16.30

2. 会場：京都大学楽友会館

京都市左京区吉田近衛町 市電・市バス近衛下車東入ル

3. 題目と講師：

第1日(2月6日)

9.30~12.30	① 弾性解析プログラミング	数値解析研	桜井達美
13.30~16.30		大成建設	吉村信敏

第2日(2月7日)

9.30~12.30	② 弾塑性解析のプログラミング	{東大生研 東大生研	山田嘉昭 横内康人
13.30~16.30	③ 大変形解析の考え方とプログラミング		

4. 定員：100名

対象：有限要素法の基礎的な考え方(第I部 終了程度)と FORTRAN のプログラムがある程度

理解できる方

▶ 参加料：共催・協賛団体会員 第Ⅰ部 7000円，第Ⅱ部 7000円，Ⅰ・Ⅱ部通し 12000円

ただし非会員は各 3000円増し

(学生会員 第Ⅰ部 4000円， 第Ⅱ部 4000円， Ⅰ・Ⅱ部通し 7000円)

▶ テキスト：日本材料学会作成教材

培風館発行コンピューターによる構造工学講座 Ⅱ-2-A および Ⅰ-1-B (当日会場でも頒布)

▶ 申込期限：1973年1月15日(月)

▶ 申込方法：参加ご希望の方は勤務先・連絡先・氏名・コース名(Ⅰ,Ⅱの種類)・所属学会名・培風館発行講座購入希望の有無等を明記(様式随意)し，参加料を添えて次にお申し込みください。

申 込 先：日本材料学会講習会係 電話京都(075)761-5321番

(郵便番号 606)京都市左京区吉田泉殿町 1-101 振替口座 京都 26625番

(付) テキスト頒布

水工学におけるランダム事象と最適化に関する諸問題	頒価 1800円	送料 130円	
土木工事における土中水の扱い方	" 1800円	" 130円	
シールド工法研究会資料(地下鉄シールドの問題点の2点1組)	" 200円	" 90円	
工事の安全対策	" 600円	" 130円	
近畿開発と大型土木プロジェクト	" 350円	" 100円	
写真測量とその応用	" 700円	" 130円	
昭和46年度関西支部年次学術講演概要	{ 正会員	" 200円	" 160円
	{ 学生会員	" 100円	" 160円
	{ 非会員	" 700円	" 160円
昭和47年度関西支部年次学術講演概要	{ 正会員	" 500円	" 160円
	{ 学生会員	" 300円	" 160円
	{ 非会員	" 800円	" 800円

(残部僅少)

(残部僅少)

TRANSACTIONS OF JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

頒布について

土木学会では，わが国の土木技術・学術の研究内容を広く海外へ紹介する目的で標記の図書を年2回刊行しております。

本書には，土木学会論文報告集掲載論文の内容が図表を用いてわかりやすく記述されておりますので，海外との学術・技術交流の一環として広くご利用下さるようおすすめいたします。現在までに下記の5冊が刊行されておりますのでご案内致します。

Vol. 1, Part 1, Part 2 (1970年刊行)

Vol. 2, Part 1, Part 2 (1971年刊行)

Vol. 3, Part 1 (1972年6月刊行)

体 裁：本文B5判8ボ2段組 110~200ページ

定 価：各冊とも1500円(送料140円)

申 込 先：160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会

下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究

- 昭和43年度報告書 B 5・232 ページ 1200円(〒140円) 3冊合計
- 昭和44年度報告書 B 5・160 ページ 1300円(〒140円) 4000円
- 昭和45年度報告書 B 5・200 ページ 1500円(〒140円) (〒200円)

中国四国支部行事案内

郵便番号 730 広島市基町10番3号 自治会館内 電話 0822-21-2666
 または
 郵便番号 732 広島市小町4番33号 中国電力(株)土木部内
 電話 0822-41-0211

(1) 昭和 48 年度支部総会と年次学術講演会

1. 日 時：1973 年 5 月 24 日(木) 9.00~12.30 } 学術講演会
 5 月 25 日(金) 9.00~12.30 }
 5 月 24 日(木) 13.30~14.00 支部総会
 5 月 24 日(木) 14.00~17.00 特別講演会
2. 会 場：島根県民会館 松江市殿町 163 (電 0852) 22-5522)
3. 参加費：無 料
4. 申込方法：講演希望者は、連絡先および氏名を明記のうえ、下記へご連絡ください。折り返し申込書および申込要領をお送り致します。なお、申込書の受付期限は、1973 年 2 月 20 日(火)となっておりますので、返送期間を見込んで早めにお申込み下さい。
5. 申込先 〒730 広島市基町 10 番 3 号(自治会館内) 土木学会中国四国支部事務局
 電話 (0822) 21-2666 (問合せ月・水・金・15 時まで)
6. 内 容：未発表のもので 1 人 1 題にかぎる。講演時間は 1 題につき 15 分の予定。
 応用力学・構造力学・橋梁・水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学・土質工学・基礎工学・土木機械・施工・鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・測量・交通等
7. 宿泊施設 会場から徒歩 10 分以内のところにある宿泊施設を、ご紹介します。観光シーズンですから各自で早目に申込みください。(支部ではお取次いたしません)

施設名	所在地	定員	宿泊料	電 話
湖 東 会 館	灘 町 1-3	38 名	1800 円程度	(0852) 21-6763
婦 人 会 館	中原町 19	40 名	1700 円程度	(0852) 23-8181
白 鳥 会 館	千鳥町 20	120 名	2500 円程度	(0852) 21-6195
むらくも会館	殿 町 369	100 名	2500~3000円	(0852) 21-2670

(宿泊料は 1 泊 2 食付の料金です)

(2) 見 学 会

▶ 5 月 25 日(金) ◀

1. 日 時：1973 年 5 月 25 日(金) 学術講演会終了後 13:00~17:00
2. 申 込：見学コース・参加費・申込方法等くわしくは、次号でお知らせします。

(3) 「地沁りとその対策」講習会

▶ 2 月 20 日(火) ◀

共 催：土木学会中国四国支部・土質工学会四国支部

1. 日 時：1973 年 2 月 20 日(火) 9.00~16.30
2. 場 所：高知市本町 18 番地 高知電気ビル 8 階
 電話 (0888) 75-9271
3. 題目および講師：

9.00~11.00	地沁りの発生機構と調査	建設省土木研究所地すべり研究室長	渡 正亮
11.00~12.00	四国地方の地質と地沁り	香川大学農学部教授	斎藤 実
13.30~15.00	鹿野川ダム周辺(大地)の地沁り	愛媛県土木部主幹	武田 治
15.00~16.30	高知県の地沁り対策工法	高知大学農学部教授	茨木 省三
4. 定 員：200 (申込先着順)
5. 受講料：会員 1000 円、非会員 1500 円(テキスト代を含む)
6. 申込方法：勤務先、連絡先、および会員区分を明記のうえ、受講料をそえ、1973 年 2 月 10 日までに現金書留で、お申し込みください。なお納入後の受講料は、返却いたしません。
7. 申込先：〒760 高知市福岡町 4 丁目 26-32 四国地方建設局企画部内 土質工学会四国支部
 電話 (0878) 51-8061 内線 332

西部支部行事案内 (郵便番号 810 福岡市中央区薬院 2 丁目 14 番 21 号)
電話 092-78-3716

(1) 昭和 47 年度支部総会

▶ 2 月 25 日 (日) ◀

1. 期 日：1973 年 2 月 25 日 (日) 12.00~13.00
2. 会 場：福岡市 九州大学工学部防音教室
3. 議 題：1. 昭和 47 年度事業および会計中間報告
2. 来年度事業について
3. 来年度支部長紹介
4. その他
4. 本掲載をもって総会案内といたします。会員諸氏多数ご出席下さい。

(2) 昭和 47 年度研究発表会

▶ 2 月 25 日 (日) ◀

1. 日 時：1973 年 2 月 25 日 (日)
2. 会 場：福岡市 九州大学工学部防音教室
3. 発表申込：1. 発表者は会員であること。1 人 1 題とします。
2. 発表題名、所属、会員種別、氏名を 1972 年 12 月 20 日までに申込むこと。
3. 発表時間 15 分 (質問時間を含む)、スライド使用はできません。
4. 原稿提出：1. 原稿用紙は発表申込者に支部から送ります。
2. 原稿用紙 1 枚 (1 620 字詰)、1 題につき 2 枚とし超過は 2 枚まで (合計 4 枚) とし、超過分に対しては 1 枚につき 1 000 円原稿に添えて下さい。
3. 原稿提出は 1973 年 1 月 25 日まで支部必着のこと。
5. 申込および提出先：福岡市中央区薬院 2 丁目 14-21 土木学会西部支部 (78) 3716

(3) 沖縄特別講演会

▶ 1 月 27 日 (土) ◀

沖縄復帰を記念して、沖縄特別講演会を下記のとおり開催いたします。多数ご来聴下さい。

記

1. 期 日：1973 年 1 月 27 日 (土) 13.00~17.00
2. 会 場：ゆうな荘。那覇市寄官 314 番地 Tel. 55-5000
3. 主 催：土木学会西部支部
4. 参 加 料：無料、一般の方の来聴も歓迎します
5. プログラム：

13.00~13.10	開会のあいさつ	土木学会西部支部
13.10~14.00	土木技術の昨日、今日、明日と土木学会の役割	土木学会副会長 九州大学教授 篠原 謹爾
14.00~1.450	沖縄における建設工事と生物環境	琉球大学教授 池原 定雄
15.00~15.50	都市計画における現在の問題	土木学会西部支部長 九州大学教授 内田 一郎
15.50~16.40	沖縄の開発と問題点	沖縄開発庁総合事務局次長 野島 虎治

第 18 回 橋梁・構造工学研究発表会

日本学術会議構造研究連絡委員会、土木学会、日本建築学会が共催した標記発表会の印刷物の残部がありますので希望者は至念お申込み下さい。21 編の論文概要が掲載してあります。

記

- 裁 体：B 5 判 168 ページ (タイプオフセット印刷)
 頒 価：1 500 円 (〒 170 円)
 申込方法：頒価に送料をつけ土木学会あて申込むこと。

▶日本学術会議 第 62 回総会報告◀

第 62 回総会は、10 月 25～27 の 3 日間会員 210 名中それぞれ 184, 188 および 175 名の出席を得て開かれた。

第 1 日目には、前回総会以後の学術会議の活動体について報告が行なわれた。これらは、各研連の活動報告とともに出席会員に配布されている。

提案審議は総会 2 日目から始った。今総会で可決された案件は、勧告 3 件、要望 1 件、申入れ 1 件、声明 1 件に申合せ 8 件の計 14 件である。総会はまず民間学術研究機関に対する研究体制確立のための助成の拡大について、また医薬品の臨床試験に関する体制の確立について、および沖縄の自然保護と文化遺産保存の緊急措置について政府に勧告することにした。沖縄県では、その開発計画および沖縄国際海洋博覧会開催に伴う自然および文化遺産の破壊および西表島の自然保護に緊急措置をとるとともに、これに関する緊急総合基礎調査について具体的な措置をとることを政府に求めることにした。医薬品の臨床試験については従来当該企業側およびその私的に委嘱する医師の判断と責任にそのほとんどがまかされていた。このような状態は、すみやかに改善されるべきであって、この勧告では、政府に医薬品臨床試験評価に関するチェックシステムを設け、関連する諸課題の処理につき緊急に適切な措置を講ずることを求めている。この勧告案は強い関心を呼んだが、それとともにチェックシステムの公正を期することの重要性が強調され、この趣旨に沿った修正を経て可決された。

この勧告は、全国民に直接かかわり合いをもつものであり、前総会において確認された学術会議の任務、すなわち「科学を産業および国民生活に反映浸透させ

る」ことの端的な具体化であるといえよう。同様のことは、国際環境保全科学会議（仮称）の開催のための準備についての申し合せについてもいえる。すなわち現実の環境破壊に対する対応療法的な対処にとどまらず、人間と自然の間に調和のある正しい関係を確立し、これを将来にわたって保持して環境の保全をはかるため、全世界の科学・技術者ベースによる科学的・学際的な討議を行なうことを今期学術会議の仕事として準備することを申し合せたのである。

これらの勧告申合せのほか、今後の学術会議の活動にかかわり合いをもつ二つのことが決定された。一つは日本学術会議 25 年史の編纂であり、他は日本学術会議の広報活動の基本についてである。学術会議がその会議法に示されているように、わが国の科学者の内外に対する代表機関であるならば、国民および科学者一般に学術会議の活動に関する広報活動を広く展開することはきわめて必要なことである。この申し合せは広報活動のありかたを提示しており、これに基づいて全会員がいっそう活動することを求めている。

大学改革については、これが日本の学術体制にかかわる重要な問題として考えられ、特別委員会を設けて審議が進められているが、今総会ではさしあたり、わが国の大学制度全体に重大な関係がある筑波新大学問題に関しては、次期総会までの間その成り行きを注視し、緊急必要な場合には、会長が運営審議会の議に基づいて政府に一定の申し入れを行なうことができるようにした。

さらに大学院制度については、その改革を本会議と十分な連絡をとって進めるよう申入れることにした。

科学技術の平和利用は、学術会議がその発足以来たえず深い関心を示してきた

ところであって、この観点に基づいて本総会はインドシナ地域における破壊的戦争行為について内外の科学者に訴える声明を行なった。また、科学技術庁長官の国防会議参加問題に関連して、わが国の科学技術のあり方について強い懸念を表明するとともに、科学技術平和利用の原則の堅持について政府に要望することとした。これらの問題については種々の意見が活発に交換された。その他いくつかの案件が申合わされたが、とくに、研究連絡委員会の群別等については引き続き審議することが申合せられた。総会に予定された議題の審議を終えてから、日本学術振興会のあり方（試案）について活発な討論が行なわれた。この試案が日本の学術体制上重大な問題を提起するものであるという指摘とともに、この試案に対処するための具体的な政策の検討を行なう必要性が力説された。この結果、会長から現在の運営附置学振小委員会の機能を強化する旨の見解の表明があった。

その後ひき続いて会長から日中学術交流について所信の表明があった。ここで会長は、事情が許せば本会議の代表を中国に派遣することを含めて、中国科学院を唯一の相手として本格的な学術交流の促進をはかるとともに、これに関する内外の要望については、関係委員会に検討を求めることとし、さらに本会議が戦時中のわが国の科学者の態度の深刻な反省を契機として創設されたいという伝統を、アジア諸国との学術交流に際してとくに堅持する決意を表明した。

最後に沖縄県から参加した 5 人の科学者を代表して池原貞雄（琉球大学教授）のあいさつがあり、第 62 回総会は終了した。

（日本学術会議広報委員会）

第 27 回年次学術講演会（九州大学）講演概要集

部 門	内 容	題 数	ページ数	頒 価
1	応力・構造・橋梁など	284	878	2 000 円（〒 200 円）
2	水理・水文・河川・港湾・海岸・発電・衛生など	270	780	1 900 円（〒 200 円）
3	土質・基礎・岩盤など	187	624	1 300 円（〒 200 円）
4	道路・鉄道・交通・都市計画・測量など	140	378	1 000 円（〒 170 円）
5	材料・施工法・コンクリートなど	145	412	1 100 円（〒 170 円）
合 計		1 026	3 072	7 300 円（〒 600 円）